

I イネ

1 水稲病害虫

水稲病害虫重点防除指導方針

福井米のレベルアップを積極的に推進し、消費者ニーズに応じた品質・食味に優れ、かつ安全で安心な福井米を生産するために、稲作栽培環境の改善を図るとともに病害虫の適切な防除を推進する。

1 安全で安心な福井米の生産

- (1) 農薬の使用時期、使用回数、散布量・濃度などの使用基準の遵守を推進する。
- (2) 生産履歴記帳を推進する。

2 発生予察に基づく防除の推進

- (1) 病害虫防除室および病害虫防除員等による発生予察を実施し、その発生予察情報を指導機関および生産者へ迅速に提供する。
- (2) 要防除水準に基づく総合的な病害虫防除を推進する。

3 防除体制の整備

- (1) 地域における病害虫の発生動向を的確に把握するため、圃場内をよく調査する。防除にあたっては、広域、請負、共同防除、大型防除機を利用し、適期に効率的な防除を推進する。
- (2) 無人航空機による防除は、危被害防止を万全にするため、国の「無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」または「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」および県の「福井県無人航空機利用空中散布等作業実施要領」に基づき適正に実施する。

4 水稲主要病害虫の防除技術

- (1) 種子消毒と育苗期の病害虫
 - ア 指定採種圃から採種された健全な種子を用いるとともに、種子消毒の徹底により育苗期の病害虫発生の防止に努める。
 - イ 育苗器材の清浄、育苗施設での温度管理と苗立枯病の体系防除を推進する。
- (2) 本田初期病害虫
育苗箱施薬による予防を基本とし、併せて中干し等による耕種的防除を推進する。
- (3) 収量、品質低下の影響が大きい病害虫
 - ア 穂いもち防除は出穂直前と穂揃直後の2回の薬剤散布を基本とし、多発が予想される場合は傾穂期にさらにもう1回の薬剤散布を実施する。
 - イ 紋枯病は近年の水稲生育期の気温上昇により多発傾向にあるので、箱粒剤等予防散布で発生を抑制するなど要防除水準に基づき薬剤散布を推進する。
 - ウ 斑点米カメムシ類の防除は、出穂10日前までに圃場周辺の草刈を行い、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回の薬剤散布を基本とし、多発が予想される場合は、さらにもう1回薬剤を散布する。
- (4) 移植時期が遅い栽培、直播栽培での病害虫
いもち病、紋枯病、イネツトムシ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネアオムシの発生が多くなりやすいので、特に注意する。

5 環境に配慮した防除の推進

- (1) 住宅周辺では飛散の少ない粒剤・微粒剤等の使用を推進する。
- (2) 農薬散布時は排水路等への流出を防止するため、排水口を止水板（高さ10cm程度）などで閉じ、落水やかけ流しはしないなど、十分な止水管理を推進する。
- (3) 要防除水準に基づき適正に薬剤散布することで、環境負荷の少ない防除を推進する。
- (4) 種子消毒後の廃液および使用済み農薬等は、関係法令に基づき適正な処理を推進する。

(1) 種子消毒・育苗管理
種子消毒薬剤一覧

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用時期	使用方法	使用回数
いもち病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
				200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
	テクリートC7077 [®] ル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	ハシレート水和剤20	M3,1		乾燥種重量の0.5～1%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	ホマイ水和剤	M3,1		20～30倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				乾燥種もみ重量の0.5～1.0%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
	モミカートC・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	ごま葉枯病	テクリートC7077 [®] ル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
ハシレート水和剤20		M3,1		乾燥種重量の0.5～1%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				乾燥種もみ重量の0.5～1.0%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
ホマイ水和剤		M3,1		20～30倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
モミカートC・DF		M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用時期	使用方法	使用回数
ばか苗病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
				200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
	テクリートC7077ル	M1,3		20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5～1%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種もみ重量の0.5～1.0%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20～30倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
もみ枯細菌病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
				200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
	テクリートC7077ル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
褐条病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	テクリートC7077ル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種1kg当り重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用時期	使用方法	使用回数
苗立枯細菌病	タフロック	BM2		200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
				200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
	テクリートC707ブル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	モリガードC・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
紋枯病	エバコートFS	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
	エバコートFS	7		乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
	スミチオ乳剤	1B		1000倍	収穫21日前まで	散布	2回以内
				1500～3000倍	浸種前	24時間種もみ浸漬	1回
	エバコートFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
	エバコートFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
ニカメイト	エバコートFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回

育苗期間薬剤一覧

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ムレ苗防止	タカ [®] LEI-AM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り500mL	は種時又は発芽後は種前	土壌灌注	1回
	タカ [®] LEI-AM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タカ [®] レン液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り500mL	は種時又は発芽後は種前	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タカ [®] レン粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り4～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
褐条病	カスミン液剤	24		4～8倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り希釈液50mL	覆土前	は種した種籾の上から均一に散布する。	1回
	カスミン粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㊦] 1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㊦] 1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
				500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り500mL	は種時又は発芽後は種前	土壌灌注	1回
根の生育促進	タカ [®] LEI-AM液剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タカ [®] LEI-AM粉剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り500mL	は種時又は発芽後は種前	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タカ [®] レン液剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り4～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	タカ [®] レン粉剤	32		4～8倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㊦])1箱当り希釈液50mL	覆土前	は種した種籾の上から均一に散布する。	1回
苗木枯細菌病	カスミン液剤	24		育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㊦] 1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
	カスミン粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㊦] 1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
苗木枯病(トリコデルマ菌)	ダコレート水和剤	M5,1		400～600倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
	ハソレート水和剤	1		800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り1%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
				500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時1回又はは種時とは種7日後頃の2回	灌注	2回以内
				500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
				育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
苗木枯病(ピシム菌)	タカレイン液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タカレイン粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り3～6g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ナエアイン777 [®] ル	U17		1000～2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期	土壌灌注	2回以内
				2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5～1%	は種時	土壌灌注	2回以内
				800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り1%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
苗木枯病(7ガリウム菌)	ダコレート水和剤	M5,1		400～600倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
	タカレイン液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
苗立枯病(フザリウム菌)	タチガレエースM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タチガレ液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り500mL	は種時又は発芽後は種前	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タチガレ粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り3～6g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ナエアイン7077 [㍓] ル	U17		2000倍	育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㍓])1箱当り0.5～1 [㍓]	は種時	土壌灌注	2回以内
苗立枯病(リゾプス菌)	タコニール1000	M5		1000～2000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り1 [㍓]	は種時から緑化期但し、は種14日後まで	土壌灌注	2回以内
	タコニール粉剤	M5		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り500mL	は種時から緑化期但し、は種14日後まで	土壌灌注	2回以内
	タコニール粉剤	M5		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り15～20g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	タコニール水和剤	M5,1		400～600倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5 [㍓])1箱当り0.5 [㍓]	は種時から緑化期但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
	ナエアイン7077 [㍓] ル	U17		2000倍	育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㍓])1箱当り0.5～1 [㍓]	は種時	土壌灌注	2回以内
				1000倍	育苗箱(30×60×3cm)使用土壌約5 [㍓])1箱当り0.5 [㍓]	は種時	土壌灌注	2回以内

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
幼苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	カスミン粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm)使用土壌		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
				約5 $\frac{g}{L}$ 1箱当り15～20g				
				育苗箱(30×60×3cm)使用土壌		は種前は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回
				約5 $\frac{g}{L}$ 1箱当り30g				

水稻種子消毒の手順と育苗管理

種子選定

- ・採種圃産種子を使用する。
- ・傷粃や脱ぶ粃が混入していないものを使用する。

比重選

- ・重症感染粃の除去に有効。
- ・水と硫安の量はおよそ次のとおりであるが、必ず比重計で比重を調整する。

	比重	水	硫安
うるち	1.13	10 ℓ	2.64kg
もち	1.08	10 ℓ	1.50kg

消毒

薬剤処理

【湿粉衣処理】

- ・適度の湿り気を与えた粃（種子重の約3%の水分量）に所定量の薬剤を少しずつ加え粉衣する。
- ・胴回転式ミキサー利用の場合は、粉衣後に左右それぞれ3分間計6分間程度回転する。

【浸漬処理】

- ・液温は**10℃以上**とする。
- ・浸漬薬液の量は種子容量と等量（粃18ℓ＝10kg、薬液18ℓ）くらいで消毒を行う。なお、同一薬液で何回も消毒を繰り返す場合は、最初の容量比を粃1：薬液1.2の割合にすれば浸漬ごとに薬液を追加しなくても8回まで使用できる。
- ・浸漬中に2～3回袋を上下、または攪拌する。

【吹き付け処理】

- ・専用の種子消毒器を用いて、乾燥種子1kg当たり30mlの希釈液を種粃に吹き付ける。

【塗沫処理】

- ・適当な容器内で種粃を攪拌しながら、希釈液を滴下し、種粃に均一に付着させる。

温湯処理

- ・温湯処理専用の機械を使用する。
- ・処理条件として、**60℃10分**または**58℃15分**が妥当である。
- ・対象病害はいもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病である。
- ・褐条病には効果が不十分であるが、温湯処理に加え、催芽時に食酢200倍液浸漬処理することで防除効果が得られる。
- ・温湯処理は乾燥粃で行い、**処理温度と時間を厳守**する。濡れた種粃で行うと発芽不良の原因となり、温度・時間が不適切だと発芽不良を起こしたり消毒効果が十分に得られない。特に温度が高い場合や消毒時間が長い場合には発芽率が低下するので注意する。
- ・処理後は速やかに水で冷却し、直ぐに浸種を行う。
- ・防除効果が高い新技術(事前乾燥+65℃10分)には専用設備使用が望ましい。

風乾

- ・十分風乾し、粃に薬剤を固着させる。

【湿粉衣粃、塗沫粃】

- ・サラン袋詰めの場合は風通しのよい日陰に2～4日間おく。
- ・シートの上に薄く広げる場合は日陰に3～6時間おく。

【浸漬粃】

- ・シートの上に薄く広げ、日陰に2日間おく。
- ・袋詰めによる風乾はしない。

浸種

- ・防除効果の低下を防ぐため、停滞水中で行い、浸種開始から3日間は換水しない。
- ・病原菌の感染防止のため、河川、湖沼、ため池等の水は使わない。
- ・病原菌の増殖・感染防止のため、**20℃以上**で浸種しない。

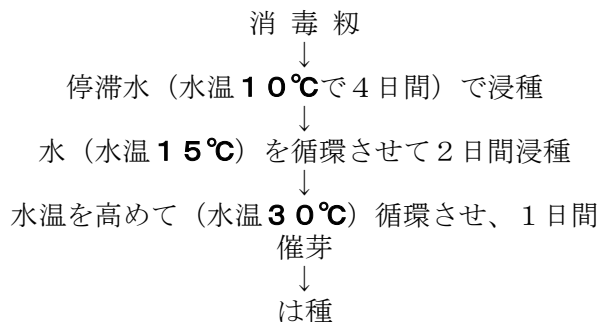
温度	浸種日数
10℃	10日間
15℃	7日間

催芽

- ・**30℃**で1～2日間行い、催芽揃いのよい状態にする。
 - ・病原菌の増殖を防ぐため、**30℃**を超えないようにする。
 - ・特にテクリードCフロアブル、モミガードC水和剤・DFを使用したときは、初期生育が遅延することがあるので、十分にはとむね状態にする。
- ※モミガードC水和剤、モミガードC・DFで、循環式の浸種水槽・催芽器を使用する場合は、循環水に空気が混じると泡が発生するので、給水口を水面下に入れる。また、泡は汚れた水でも発生するので、催芽にあたって、水を1回ごとに交換する。

はとむね催芽器使用上の留意点

- ・はとむね催芽器を使用すると、細菌病が増加しやすいのでなるべく使用しない。
- ・使用する場合は次の手順で行うとよい。



その他の注意事項

- ・消毒後の糶は有害であるから食用や飼料には用いない。
- ・使用済みの薬液や浸種液は河川や池等に流さず適正に処理する。

は種

- ・床土のpHは4.5～5.1程度とする。pHが高いともみ枯細菌病やムレ苗が、低いと苗立枯細菌病が発生しやすい（くんたんはpHが高いため、床土に混ぜる場合はpHが上がりすぎないように注意）。
- ・苗立枯病防除のため、薬剤の混和・灌注を行う（苗立枯病の種類によって薬剤が異なる）。
- ・育苗資材の洗浄・消毒。
- ・厚播き、多肥を避ける。

出芽

- ・病原菌の増殖・蔓延防止のため、**30℃**を超えないように管理する。
- ・出芽を揃える。

育苗

- ・温度：夜間**5℃**以下、昼間**25℃**以上にならないように管理する。温度が高いと細菌病蔓延のリスクが爆発的に高まる。
- ・水管理：過灌水、乾燥を避ける（天気の良い日の早朝に行い、灌水量は必要最小限とする）。
- ・病原菌感染防止のため、池や川の水は使用せず水道水を使う。
- ・防除：苗立枯病の発生をみたら薬剤を灌注する。細菌病には発病後の対策はない。

種子消毒剤の適用病害虫一覧（◎防除指針に採用、○登録のあるもの、×登録のないもの）

薬 剤 名	処 理 法	ば か 苗 病	い も ち 病	ご ま 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	褐 条 病	苗 立 枯 細 菌 病	苗 立 枯 病				イ ネ シ ン ガ レ セ ン チ ユ ウ	
								リ ゾ ー プ ス 菌	フ ザ リ ウ ム 菌	ト リ コ デ ル マ 菌	ピ シ ウ ム 菌		
ベンレートT水和剤 20	粉 衣	◎	◎	◎	○	○	×		○	○	○	○	○
	浸 漬	◎	◎	◎	×	○	×		○	○	○	○	○
	吹き付け	◎	◎	◎	○	×	×		×	×	×	×	○
ホーマイ水和剤	粉 衣	◎	◎	◎	×	×	×	○	—	—	—	—	○
	浸 漬	◎	◎	◎	×	×	×	○	—	—	—	—	×
スターナ水和剤	粉 衣	×	×	×	○	○	○	×	—	—	—	—	×
	浸 漬	×	×	×	○	○	○	×	—	—	—	—	×
テクリードCフロアブル	浸 漬	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	×	○	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	×	○	×	×
モミガードC水和剤	粉 衣	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
	浸 漬	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
モミガードC・DF	浸 漬	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
タフブロック	粉 衣	○	○	×	○	×	○		○	○	○	×	×
	浸 漬	◎	◎	×	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
ルーチンシード FS	塗 沫	×	◎	×	○	×	×	×	—	—	—	—	×

吹き付け:塗沫処理を含む。

タフブロックの褐条病は催芽時処理。

苗立枯病、褐条病、もみ枯細菌病等適用農薬一覧（◎防除指針に採用、○登録のあるもの）

薬 剤 名	対 象 病 原 菌 等									
	トリコデルマ菌	ピシウム菌	リゾープス菌	フザリウム菌	褐条病	幼苗腐敗症 (もみ枯細菌病)	苗立枯細菌病	ムレ苗防止 根の生育促進	根の伸長およ び発根促進	いもち病
タチガレエースM粉剤		◎		◎				◎		
タチガレエースM液剤		◎		◎				◎		
タチガレン粉剤		◎		◎				◎		
タチガレン液剤		◎		◎				◎		
ダコニール粉剤			◎							
ダコニール1000			◎							
ダコレート水和剤	◎		◎	◎						○ (苗いもち)
ベンレート水和剤	◎			○						○
ナエファイン フロアブル		◎	◎	◎				○		
カスミン粒剤					◎	◎	◎			
カスミン液剤					◎	○	◎			○ (苗いもち)
フジワン粒剤								○ ムレ苗防止	◎	○

※育苗期間に登録のある農薬について記載

☆糸状菌による苗立枯病

- ・フザリウム、ピシウム、リゾープス、トリコデルマ、リゾクトニア菌などによって発生する。
- ・育苗環境の不良や急変により、苗が不健康なときに発生しやすい。

フザリウム菌

局部的に発生し、地際部に白いかびが見られるほか、根を中心に白色～紅色のかびが認められる。

床土のpHが5.5以上の場合や緑化期以降に10℃以下の低温にあうと発生しやすい。また、苗の活力、特に根の活力を低下させ、根を傷つけるような管理（床土の乾燥・過湿を繰り返すなど）は発病を助長する。

ピシウム菌

フザリウム菌による被害と似て坪状に発生するが、地際にかびは見られない。なお、ムレ苗は本菌による場合が多い。

床土のpHが高い（5.5以上）と発病しやすく、緑化期に低温（5℃以下）にあうと発病しやすい。畑土を床土に用いたり、河川や池の水を灌水に利用すると発生しやすい。

リゾープス菌

出芽時に箱全体、または一部が白いかびに覆われる。床土の表面や糞のまわりによく発生し、菌糸の層を形成する。根は短く、先端が異常にふくらんだりする。

床土のpHが高いと発病しやすく、出芽時に32℃を越す高温や、緑化開始10日頃までの低温は発病を多くする。

トリコデルマ菌

出芽時に床土表面・糞のまわりに白いかびが生え、しばらくするとかびは青緑色となる。

床土のpHは4.0以下で発生しやすく、土壌水分が少ない場合に発生しやすい。

リゾクトニア菌

下葉や葉鞘が灰色となり、葉腐れ症状を示す。葉鞘には菌糸がくもの巣状になり、初め白色、後に褐色の小さな菌核を作る。

本菌は野菜なども侵すので、畑土を床土として用いると発生しやすい。

☆細菌による苗立枯病

- ・いったん発生すると効果のある防除薬剤がないため予防を徹底する。

もみ枯細菌病

坪枯れ状に発生し、腐敗した苗の芯葉を引っ張ると容易に抜ける。腐敗した苗は悪臭を放つ。

浸漬中に保菌糞から健全糞へ感染する。水温が10℃の場合感染は少ないが、水温が高くなるほど感染が進む。また、催芽温度も20℃～33℃では、温度・出芽温度が高いほど(25<30<35℃)発病が激しくなる。土壌は粘土質で水持ちがよいほど、pHが高いほど発病が多くなる。透水性がよく、pHが5.1以下では発病は少なくなる。は種密度が高くなるほど、窒素肥料の施用が多いほど発病が多くなる。

褐条病

出芽中に激しく発病すると腐敗枯死する。病気の進展が遅い場合は、2～3葉期に達した苗の葉鞘に暗褐色の条斑が現れる。条斑は葉身にも見られる。発病苗は育苗箱内に均一に分散して発生することが多く、坪枯れとはならない。

はとむね催芽器を使用すると多発しやすい。出芽および緑化期の高温は発生を多くする。出芽温度が32℃より低い温度では発病が少ない。

苗立枯細菌病

普通坪状に発生するが、ひどいときは箱全体の苗が枯死する。通常葉芯は腐敗しないため、引っ張っても抜けにくく、枯死した苗は先端がロール状に巻き、赤茶けた状態で乾枯する。病原菌は催芽時に急激に増加し、緑化期あるいは硬化期に発病する。

出芽および緑化期の高温、土壌の乾湿は発生を助長する。人工培土で発生しやすい。

(2) 湛水直播栽培における防除

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
いもち病	ルンジン [®] FS	P3		乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)		は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	Dr.カレ [®] フェルテラ [®] 粒剤	P2,2		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
紋枯病	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	エバ [®] -コ [®] ルジ [®] FS	7		乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
苗腐病(ピシウム菌)	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)		は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
	スクーデリアES	4		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
ウンカ類	アドマヤ [®] -水和剤	4A	劇	乾燥種もみ1kg当り原液5mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
	アドマヤ [®] -水和剤	4A		種もみ3kg当り150～200g(200g/10aまで)		は種前	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣	1回
ツマグロヨコバイ	アドマヤ [®] -水和剤	4A	劇	種もみ3kg当り150～200g(200g/10aまで)		は種前	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣	1回
	ダントツ707 [®] アブル	4A		原液	種もみ3kg当り75mL/10a	は種前	塗沫処理	1回
イネスズメ	アドマヤ [®] -水和剤	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	Dr.カレ [®] フェルテラ [®] 粒剤	P2,2		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
イヌスヅウムシ	フォルテンザFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液8mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
イトロオウムシ	ヨハバルシートFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液 11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	Dr.カレフェルテラ粒剤	P2,2		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	フォルテンザFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液8mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
キリウシガガンボ	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	ヨハバルシートFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液 11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
ニカメイチュウ	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
フタヒコヤカ	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
イネトムシ	ヨバールシートFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液 11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回

RPA

(3) 本田期の防除

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
葉いもち	6月下旬 ～ 7月上旬	ブランジン粉剤DL	U14, 16.1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
		ブランジン7077 [®] ル	U14, 16.1		1000倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
	初発の10日前～初 発時	トライ7077 [®] ル	U16		1000倍	60～150 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内
		0.8 ^g /10a	無人航空機による散布	2回以内					
	ホリテ [®] メー1 [®] 粒剤	P02		1～1.3kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
	ホリテ [®] メーT [®] 粒剤	P02		3～4kg/10a		葉いもちには初発の10日前～初 発時穂いもちには出穂3～4週間 前 収穫14日前まで	散布	2回以内	
	ホリテ [®] メーT [®] 粒剤20	P02		1kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
	コトツツ [®] 1 [®] 粒剤12	16		1～1.5kg/10a		葉いもちに対しては初発10日前 ～初発時 穂いもちに対しては出 穂30日前～5日前まで	散布	2回以内	
	ホリテ [®] ラ [®] 1 [®] 250G	11		250g/10a		出穂10日前まで ただし、収穫45日 前まで	散布	1回	
	穂いもち病	初発の10日前～ 10日後	ルンチン粒剤	P03		1kg/10a		収穫30日前まで	湛水散布
ラブ [®] サイド [®] ダントツ7077 [®] ル			4A,1 6.1		8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内
第2回目 穂揃直後		アミスター [®] トボ [®] ンSE	3A,1 1		8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	空中散布	3回以内
		1000倍	60～150 ^g /10a	散布	3回以内				
トライ7077 [®] ル		U16		1000倍	60～150 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
8倍		0.8 ^g /10a	無人航空機による散布	2回以内					
ブランジン粉剤DL		U14, 16.1		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
ブランジン7077 [®] ル		U14, 16.1		1000倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
ビ [®] -L [®] E [®] 1 [®] EX [®] ル		4C,1 6.1		250倍	25 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
8倍		0.8 ^g /10a	無人航空機による散布	3回以内					
1000倍	60～150 ^g /10a	散布	3回以内						

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
穂いもち病	第2回目 穂揃直後	ビ-エイトエグゾントゾル	4C,1		250倍	25 $\frac{g}{10a}$	収穫7日前まで	散布	3回以内
			6.1		8倍	0.8 $\frac{g}{10a}$	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
	出穂3～4週間前	ビ-スタークル粉剤5DL ビ-エイトエグゾントゾル	4A,1		1000倍	60～150 $\frac{g}{10a}$	収穫7日前まで	散布	3回以内
			16,7		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ホレメ-ト粒剤	P02		3～4kg/10a	800mL/10a	葉いもちには初発の10日前～初 発時穂いもちには出穂3～4週間 前 収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内
紋枯病	出穂10日前頃	ワイドパソ豆つゑ	2B,1		250g/10a		収穫35日前まで	散布	1回
	第1回目 穂ばらみ期 (垂直進展初期)	パリダシ液剤5	U18		1000倍	60～150 $\frac{g}{10a}$	収穫14日前まで	散布	5回以内
		パリダシ粉剤DL	U18		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	5回以内
	第2回目 穂揃期	アミスターボ-ンSE	11,		8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		ビ-エイトエグゾントゾル	3A		1000倍	60～150 $\frac{g}{10a}$	収穫14日前まで	散布	3回以内
	出穂30日前～出穂 期	リッパ-粒剤	16,7		5～8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
白葉枯病	出穂30～10日前	モソカト粒剤	7		3～4kg/10a		収穫30日前まで	散布	2回以内
			7		3～4kg/10a	出穂30～10日前 但し、収穫14日 前まで	湛水散布	4回以内	
ごま葉枯病	移植活着後及び出 穂3～4週間前	ホレメ-ト粒剤	P02		3～4kg/10a		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内
稲こうじ病	出穂10日前まで	ア-ラシ粉剤DL	P02		1000倍	60～150 $\frac{g}{10a}$	収穫7日前まで	散布	2回以内
			P02		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
もみ枯細菌 病	穂ばらみ期	Zボ-ルト-粉剤DL	P02		3～4kg/10a		出穂10日前まで	散布	-
			P02		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
イネメダガリ ハ-イ	5月中旬～6月上旬 (幼虫発生初期)	エルサン乳剤	P02		1～1.3kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内
			P02		3～4kg/10a		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内
		エルサン粉剤2	1B	劇	1500～2000倍	60～150 $\frac{g}{10a}$	収穫7日前まで	散布	2回以内
			1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
イネノカミシ成虫	5月中旬	エルガン粉剤2	1B		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
イネノカミシ	5月下旬 (越冬成虫)	トレボン粒剤	3A		2～3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内
ニカメイチュウ第1世代	第1世代 粉液剤：発が最盛 期後15～20日頃 (6/15～20頃)	エルガン乳剤	1B	劇	1000～1500倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
ニカメイチュウ第2世代	期後15～20日頃 (6/15～20頃)	エルガン乳剤	1B	劇	800～1000倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
ニカメイチュウ	粒剤：発が最盛期 10日後頃 (6/10頃)	パダンSG水溶剤	14	劇	1500倍	60～150 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	6回以内
イナゴ類	6月下旬～7月下旬	パダン粒剤4	14	劇	3～4kg/10a		収穫30日前まで	散布	6回以内
ツマグサヨコバエ	6月下旬～7月下旬	MR.ジョーカー粉剤DL(失効)	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
	7月下旬～8月上旬 (第2世代幼虫発生初期)	トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
	8月中旬～8月下旬 (第3世代幼虫発生初期)	MR.ジョーカー粉剤DL(失効)	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
		アルパリン粉剤DL	3A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		キラップジョーカー707 ⁷ ル(失効)	3A		8倍	0.8 ^g /10a	収穫14日前まで	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
		スタークル粉剤DL	3A		1000倍	60～200 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内
		ダントツH粉剤DL	3A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ダントツH粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粒剤	3A		2～3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内
ウカガ類	7月下旬～8月上旬 (幼虫発生初期)	スタークル粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		アルパリン粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ピュムスタークル粉剤5DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
			6.1						
		トツギソックスクル粉剤DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内
		ダントツH粉剤DL	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粒剤	3A		2～3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数		
ウンカ類	7月下旬～8月上旬 (幼虫発生初期)	アミスタートボソSE	3A,1 1		1000倍	60～150 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内		
		MIR.ジョーカー粉剤IDL(失効)	3A		3～4kg/10a	800mL/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内		
		キアラップジョーカー7077 ^g ル(失効)	2B,3 A		8倍	0.8 ^g /10a	0.8 ^g /10a	収穫14日前まで	無人ヘリコプターによる散布	2回以内	
		ピ-ムイトEX ^g ル	4C,1 6.1		1000倍	60～200 ^g /10a	0.8 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		ピ-ムイトエグザード ^g ル	4C,1 6.1		8倍	0.8 ^g /10a	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
		ピ-ムイトエグザード ^g ル	4C,1 6.1		250倍	25 ^g /10a	25 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		エグザード7077 ^g ル	4C		250倍	60～150 ^g /10a	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		エグザード粉剤IDL	4C		8倍	0.8 ^g /10a	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
		エミリア7077 ^g ル	4F		1000倍	60～150 ^g /10a	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		スタークル豆つぶ ^g	4A		2000倍	60～150 ^g /10a	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		スタークル豆つぶ ^g	4A		8倍	0.8 ^g /10a	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル豆つぶ ^g	4A		250～ 500g/10a	0.8 ^g /10a	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		7代ビコヤカ ^g	6月下旬～7月上旬 (第1世代幼虫発生初期) 7月下旬～8月上旬 (第2世代幼虫発生初期)	スミチン乳剤	1B		2000～4000倍	60～150 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内
		イネトムシ	6月下旬(第1世代) 7月下旬～8月上旬 (第2世代) 各世代とも若齢幼虫発生初期	ハダ ^g SG水溶剤	14	劇	1500倍	60～150 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	6回以内

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
コナジラギ	7月中旬～8月中旬 (成虫飛来盛期～ 幼虫ふ化期)	スミチオン粉剤3DL	1B		3～4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内 (但し、出穂前は1)
カメジ類	早生・中生 第1回目：穂揃期 第2回目：糊熟初期	スミチオン粉剤3DL	1B		3～4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内 (但し、出穂前は1)
	晩成は糊熟初期に 1回のみ	スミチオン乳剤	1B		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	空中散布	2回以内
		エクトール粉剤DL	4C		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		エクトール7077 [®] ル	4C		16倍	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		2000倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン7077 [®] ル	3A,4		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トライトロン粉剤DL	3A,U		8倍	0.8 ^g /10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		16			3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内
		アミスタートレボンSE	3A,1		1000倍	60～150 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内
		1			8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		エリア7077 [®] ル	4F		8倍	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内
		MIR.ジヨーカー粉剤DL(失効)	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
		キアラップジョーカー7077 [®] ル(失効)	2B,3		8倍	0.8 ^g /10a	収穫14日前まで	無人ヘリコプターによる散布	2回以内
		A			1000倍	60～200 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内
		スタークル粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
	アルパリン粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
	トッパジンスタークル粉剤DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内	
	ピムスタークル粉剤5DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
	ピムスタークルゾル	4C,1		8倍	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内	
	6.1			1000倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
	ピムスタークルゾル	4C,1		8倍	0.8 ^g /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
	6.1			250倍	25 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
				1000倍	60～150 ^g /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
カメジ類	早生・中生 第1回目：穂揃期 第2回目：糊熟初期	ビ-エイトエグザードゾル	4C,1		8倍	0.8 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
			6.1		250倍	25 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ /10a	収穫7日前まで			
	晩成は糊熟初期に 1回のみ 出穂10日前頃 出穂期 出穂7日後	ダントツH粉剤DL アブサイドダントツ707アル キアツ粒剤 ワイドハシ豆つぶ ダントツ粒剤 アルリン粒剤 スタークル粒剤 スタークル豆つぶ トレボン粉剤DL	4A		1000倍	60～150 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
			4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
			6.1		8倍	800mL/10a	800mL/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内
			2B		8倍	800mL/10a	800mL/10a	収穫7日前まで	空中散布	3回以内
			2B,1		3kg/10a			収穫14日前まで	湛水散布	2回以内
			4A		250g/10a			収穫35日前まで	散布	1回
			4A		3～4kg/10a			収穫7日前まで	散布	3回以内
			4A		3kg/10a			収穫7日前まで	散布	3回以内
アザミカ類	出穂直前	スタークル粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
			4A		250g/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	

本田防除の注意事項

葉いもち

- ・圃場をよく見まわり早期発見につとめ、初期防除を徹底する。
- ・予防粒剤の適期は6月上旬頃、散布剤は初発の1週間後である。
- ・薬剤を施用した圃場でも、新たな病斑が発生したら、散布10日後に追加防除する。
- ・降雨が続いても、雨のやみ間を見て防除する。
- ・直播田や遅植田は、多発する可能性があるので注意する。
- ・粒剤は水深3～4cm、パック剤は水深5～6cmで止水、散布し、施用後1週間程度はかけ流しをしない。
- ・パック剤は、藻や浮草が多発している場合や風の強い日は拡散が劣る。
稲が繁茂してからは使用しない。
- ・オリブライト1キロ粒剤は、葉に褐点が出ることもある。

〔耕種的防除〕

- ・保菌種子や被害わらが第一次伝染源となるので、健全種子を使用し、種子消毒する。
育苗施設周辺から、わら、籾殻などを除去する。
- ・覆土時に種籾を露出させない。
- ・育苗時ハウスに紫外線カットフィルムを使用すると孢子形成が阻害される。
- ・伝染源をなくすため、補植用苗は早急に取り除く。
- ・窒素肥料を多用すると稲体が軟弱に生育し、発病を助長する。
- ・珪酸質肥料を秋起時に施用し、イネの抵抗力を高める。
秋に施用しない場合は、出穂の2週間前までに本田施用する。

穂いもち

- ・葉いもちが多発した圃場や葉色の濃い圃場、出穂期以降の連続降雨で多発しやすい。
- ・多発が予想されるときは傾穂期（穂揃い7～10日後）に追加防除する。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種の穂揃後に使用しない。
- ・ブラシン粉剤DL、ブラシンフロアブルは変色米に有効である。

紋枯病

- ・前年の罹病残渣が伝染源であるので、前年多発した圃場では箱粒剤、種子塗抹剤等を使用し、初期防除を徹底する。
- ・粒剤施用後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
- ・薬剤が稲の下部に付着するように散布する。
- ・晩生種、直播田でも7月下旬には防除する。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種の穂揃後に使用しない。

- ・初期防除を行っていても、後期に多発生が予想されるときは追加防除する。

小粒菌核病

- ・粒剤施用後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
〔耕種的防除〕
- ・発生地域では早期落水をしない。
- ・灌排水に注意し、根腐れを起こさないようにする。

白葉枯病

- ・常発地や多発が予想されるときは、予防散布を行う。
- ・散布後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。

ごま葉枯病

- ・発生が多い場合は、傾穂期にも防除する。
〔耕種的防除〕
- ・「秋落ち」など肥切れしやすい圃場で発生しやすいため、土壌改良資材を投与し土づくりを行う。
- ・適切な中干を行い、稲体の消耗を防ぐ。

もみ枯細菌病

- ・健全種子を使用し、正しく種子消毒を行う。催芽～育苗時に30℃以上の高温になると感染が広がるため温度管理に気を付ける。
- ・出穂期頃の最低気温が22℃以上の高温状態で、降雨が続くと多発する。
- ・粒剤散布後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種では穂揃期までとする。

イネヒメハモグリバエ

- ・幼虫加害初期に防除する。
- ・直播栽培など生育が遅いほど発生が多くなる。

イネミズゾウムシ

- ・山間部や雑草地の近くで発生が多い。
- ・穴あき米（穿孔米）は割れ粃（開えい粃）が多いと発生も多くなる。
- ・粉剤は浅水にして夕方散布すると効果が高い。
- ・6月上旬はニカメイチュウ、イネドロオウムシと同時に防除できる。

ニカメイチュウ

- ・遅植、直播、多肥栽培で発生しやすい。
- 〔耕種的防除〕
- ・幼虫が収穫後の刈り株で越冬するので、刈り株の早期すき込みと湛水管理を行う。

イナゴ類

- ・幼虫発生初期の6月下旬～7月上旬の防除が効果的である。
- ・畦畔沿いを重点に散布する。

ツマグロヨコバイ

- ・防除時期および防除要否は、予察情報または地域ごとの調査で判断する。
- ・早生品種の収穫後は、中晩生品種に集中加害することがあるので注意する。
- ・収穫期近くの防除は農薬使用基準に従い薬剤を選ぶ。
特に、使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・トレボン粒剤は湛水して施用し、施用後1週間程度はかけ流ししない。

ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）

- ・防除時期および防除要否は予察情報または地域ごとの調査で判断する。
- ・薬剤が株元にかかるように散布する。
- ・トレボン粒剤は湛水条件で使用し、施用後1週間程度はかけ流ししない。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・収穫期近くの防除は使用時期に注意する。

フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・遅植や直播田に発生が多い。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）

- ・葉色の濃い品種で被害がひどくなる。
- ・遅植や直播田に発生が多い。

コブノメイガ

- ・防除適期は、幼虫ふ化初期となる成虫最盛期3～5日後である。
- ・葉色が濃いイネは被害が出やすい。

カメムシ類

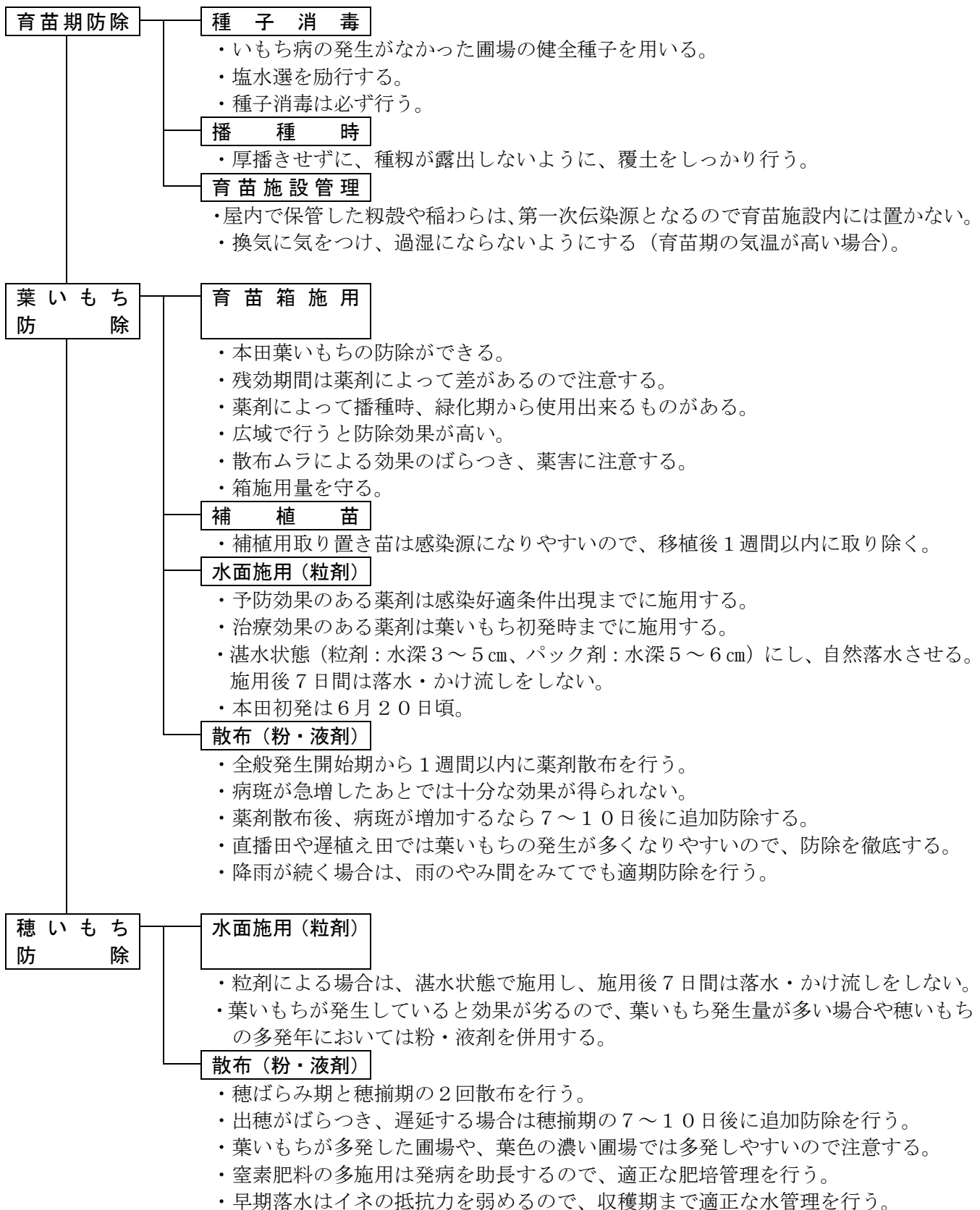
- ・ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、カスミカメムシ類の発生が多いときは、収穫14～7日前に追加防除する。
- ・粒剤は湛水深3cm程度で散布し、施用後1週間程度はかけ流しをしない。

イネクロカメムシ

- ・越冬場所に近い山際などで、6月下旬に葉が萎縮するなどの被害を確認したら7月上旬までに防除する。
- ・若齢幼虫は下部の葉鞘に多いため、下部に葉剤がかかるようにする。

(4) いもち病の総合的管理

・ 基本的ないもち病の防除対策



・いもち病の薬剤防除体系例

5月			6月			7月			8月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
← 移植期 →			← 分けつ期 →			← 穂ばらみ期 →			← 登熟期 →		
(出穂期)											
移植直前			全般発生開始前	全般発生開始	全般発生開始後 一週間以内	出穂前		出穂直前	穂揃期	傾穂期	
← 葉いもち防除 →						← 穂いもち防除 →					
箱施用			水面施用(粒剤)		散布(粉液剤等)	追加散布(粉液剤等)	水面施用(粒剤)		散布(粉液剤等)	散布(粉液剤等)	散布(粉液剤等)
体系1					◎	△			○	◎	△
体系2			◎						○	◎	△
体系3			◎				◎				△
体系4	◎					△			○	◎	△
体系5	◎					△	◎				△

◎:必要防除 ○:少発条件の場合省略可能 △:臨機防除

・ いもち病防除薬剤の特性

分類	耐性菌発生 のリスク	FRACコード [*] /有効成分名	商品名 (含まれる名称)	効果		作用特性
				予防	治療	
ベンズイミダゾール系	高	1/チオファネートメチル	トップジン	○	○	感染防止効果は強く、また、病斑の拡大を阻止する。
ジチオラン	中	6/イソプロチオラン	フジワン	○		いもち病菌の胞子発芽にはほとんど影響がなく、付着器形成以後の進入菌糸伸展の生育を強く阻害。
ストロビルリン系 (QoI 殺菌剤)	高	11/アズキシストロビン	アミスター	○	○	浸透移行性があり、胞子形成、胞子柄形成、胞子飛散を抑える。
		11/メトミノストロビン	オリブライト, ワイドバンチ	○	○	水面施用により根からイネ体にすばやく吸収される。持続期間が長い。
メラニン生合成阻害 MB I-R	未発生	16.1/フサライド	ラブサイド	○		予防効果が高く、胞子のイネへの侵入阻害効果、胞子飛散抑制効果がある。効果持続期間が長い。浸透移行性は乏しい。
		16.1/ピロキロン	コラトップ, デジタルメガフレア	○		菌糸のイネ体への侵入が阻止され、また、すでに形成された病斑上の胞子形成も阻害される。浸透移行性及び残効性を有する。
		16.1/トリシクラゾール	ビーム, サジェスト	○		浸透移行性があり、イネのあらゆる部分から吸収されて体内に分布し、いもち病菌の侵入を防ぐ。また、胞子形成を抑制し、胞子の病原力を低下させ、二次感染を抑止する。効果持続期間が長い。
メラニン生合成阻害 MB I-P	未発生	16.3/トルプロカルブ	サンエース, サントリプル, トリプルキック, ツインキック	○		イネいもち病菌の付着器でのメラニン生合成阻害作用、それに伴う感染阻害活性を持つ。
抗生物質	高	24/カスガマイシン	カスミン	○	○	治療効果が高く潜伏中の病斑治療、病斑拡大阻害効果がある。残効は短い。耐性菌が発生している。
ピリミジン系	未発生	U14/フェリムゾン	ブラシン	○	○	治療効果が高く潜伏中の病斑治療、病斑の拡大阻止作用、病斑上の胞子形成阻害を有する。
アシルオキシキノリン系	未発生	U16/テブフロキン	トライ	○	○	病斑形成や伸長、病斑上の胞子形成を強く阻害する。
抵抗性誘導剤	未発生	P2/プロベナゾール	オリゼメート, フェーストオリゼ, D r. オリゼ, ジャッジ	○		根から吸収され、いもち病菌に対し、侵入阻害作用、菌糸生育阻止作用、病斑拡大阻止作用、胞子形成阻止作用を示す。効果が現れるまで期間がかかる。持続期間が長い。
		P3/チアジニル	ブイゲット	○		稲が本来持っている病害防御機能を高めることにより、いもち病菌の稲体内での菌糸の伸展を強く阻害する。浸透移行性に優れ、根節から稲体へ速やかに吸収移行されることにより、防除効果を示す。
		P3/イソチアニル	ルーチン, スタウト, エバーゴールド, ツインパディート, ツインターボ, 箱いり娘, 箱大臣, 箱王子, シャリオ, ヨーバルトップ, ヨーバルプライム EV	○		浸透移行性があり、感染した細胞が過敏感細胞死を起こすことで他の細胞への拡大を防ぐ。
		P8/ジクロベンチアゾクス	ブーン	○		感染した細胞は活性酵素、抗菌性物質を産生し菌糸の伸展を阻害、さらに過敏感細胞死を起こして他の細胞への感染拡大を防ぐ。

・ QoI 剤耐性いもち病対策

1 QoI 剤耐性いもち病菌の発生状況

2012 年度から現在まで、福井県の近隣を含めた 21 府県で QoI 剤^{*}耐性のイネいもち病菌が確認されている。

※QoI 剤（ストロビルリン系殺菌剤）

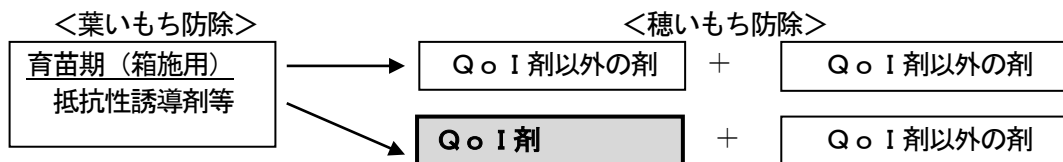
成分名	農薬名（防除指針掲載薬剤）
アゾキシストロビン	アミスタートレボン SE
メトミノストロビン	オリブライト 1 キロ粒剤、オリブライト 250G、ワイドパンチ豆つぶ

2 QoI 剤耐性いもち病菌の発生を抑えるための対策

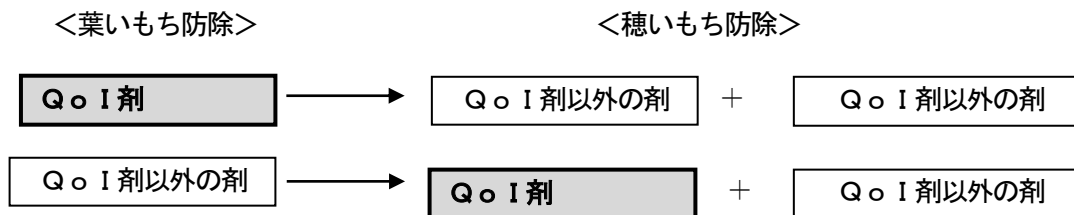
- 1) 採種圃では、種子流通に伴って広範囲で耐性菌を広める恐れがあるため、QoI 剤の使用を避ける。
- 2) QoI 剤の使用回数は、最大年 1 回とする。
- 3) 育苗箱施用で QoI 剤を使用した場合には、本田では QoI 剤を使用しない。
- 4) 種子消毒は、種子消毒の使用方法を遵守して、必ず実施する。
- 5) 耕種的防除（補植用苗を早期に除去する、種子更新による健全種子を使用する、伝染源である稲わら・籾を育苗ハウス内に置かない）を実施する。
- 6) 薬剤は規定の施用量を均一に散布し、防除効果が低下しないようにする。
- 7) 育苗時に苗いもちの発生が確認された場合には、本田への移植を行わない。
- 8) 連年、QoI 剤を使用している圃場では、可能な限り 1 年もしくは 2 年ごとに QoI 剤と作用機構が異なる薬剤とのローテーションで使用するか、耐性菌の発生リスクが低い薬剤を使用することが望ましい。

3 一般圃場で QoI 剤を利用する場合の防除体系例 ※薬剤については参照

1) 育苗箱施用により葉いもち防除する場合



2) 育苗箱施用を行わず、本田防除を行う場合（直播栽培等）

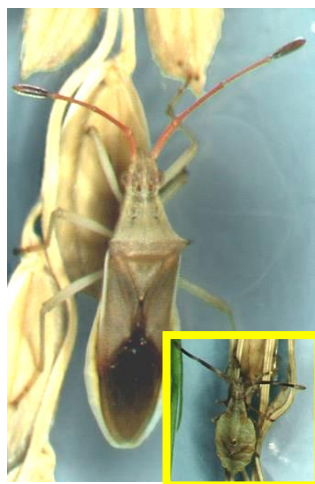


◎QoI 剤の連年使用は避け、可能な限り 1 年または 2 年おきに作用機構の異なる薬剤とローテーションで使用する（イネいもち病防除における QoI 剤及び MB I-D 剤耐性菌対策ガイドラインより）。

(5) 斑点米カメムシ類と総合的管理

・ 斑点米をひきおこすカメムシの種類 ※小枠内は幼虫

飛翔性カメムシ



ホソハリカメムシ

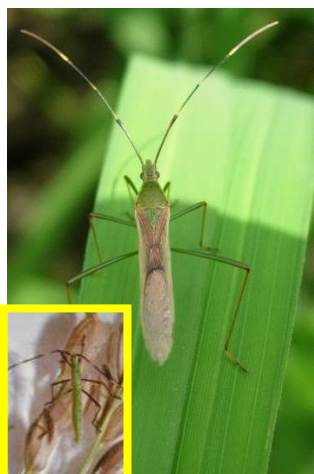


アカスジカスミカメ



アカヒゲホソドリカスミカメ

歩行性カメムシ



クモヘリカメムシ



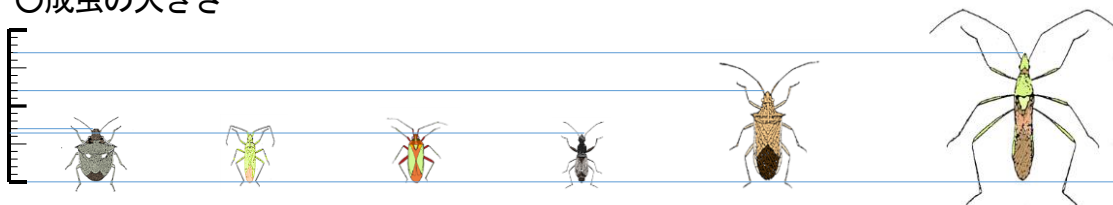
コバネヒョウタンガカメムシ



トゲシラホシカメムシ

○成虫の大きさ

2 cm
1 cm



トゲシラホシ
カメムシ

アカヒゲホソドリ
カスミカメ

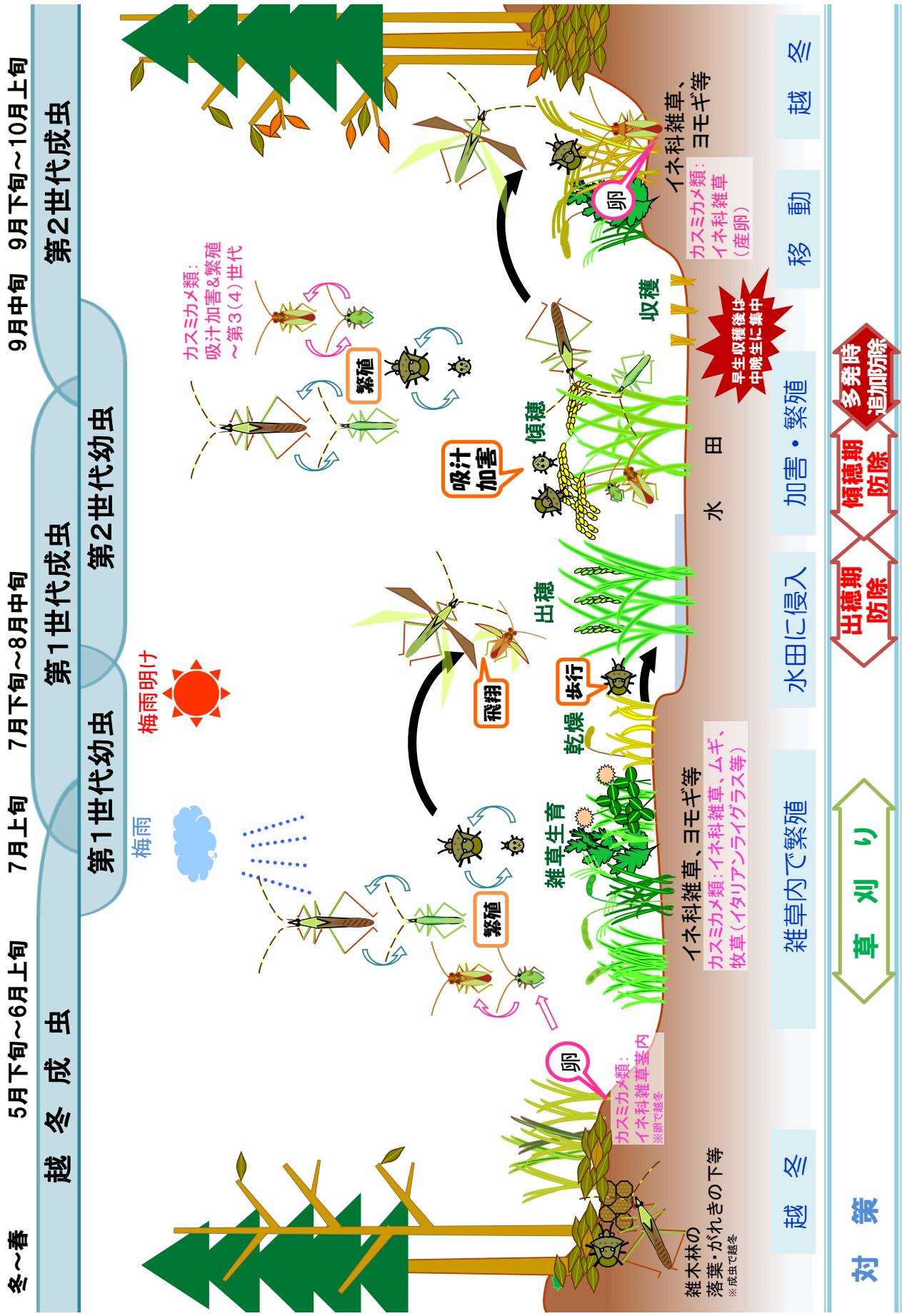
アカスジ
カスミカメ

コバネヒョウタン
ナガカメムシ

ホソハリカメムシ

クモヘリカメムシ

・斑点米カメムシ類の生活史



斑点米カメムシ類の総合的管理方法

品種の団地化

- ・出穂が早い品種、圃場ほど斑点米の発生が多くなる。
- ・品種の団地化を行うことで、カメムシ類による集中加害を防ぎ、加害を軽減する。

雑草の管理

- ・出穂するまでカメムシ類は主に畦畔、農道、休耕田などの雑草地で生息している。
- ・草刈りを出穂10日前までにこまめに行い、イネ科雑草の種子がつかないように管理し、カメムシ類の繁殖を抑える。
- ・出穂後の草刈りは、カメムシ類の水田への侵入を助長するので、行わない方がよい。
- ・休耕田におけるカメムシ防除薬剤は次ページを参照する。
- ・草刈りは地域で一斉に行うと、カメムシ類の避難場所をなくし、防除効果が高くなる。
- ・水田内の雑草は、カメムシ類の本田侵入を助長するので早めに取り除く。

出穂以降の管理

- ・水田内でカメムシ類が1頭以上すくい取られると、1,000粒に1粒以上の斑点米が混入する可能性が大きい。
- ・すくい取り調査方法：捕虫網を用いて、出穂始めと穂揃期の2回、25回往復（50回振り）で、水田内の畦畔沿いをすくい取る。捕獲率が高い早朝または、午後4時以降に行うとよい。

薬剤防除

〈粉剤・液剤による防除〉

- ・薬剤防除は、穂揃期と糊熟初期の2回防除が基本。多発生が予想される場合は3回目の防除を収穫14～7日前に行う。
- ・薬剤散布は、地域で一斉に行うと、より効果が高くなる。
- ・収穫期に近い防除は、特に農薬使用基準に注意する。
- ・カメムシの種類によって、効果の高い薬剤が異なる。
- ・圃場の周辺部は斑点米の発生が多いので、別刈り・別仕分けする。

IRAC	1B	2B	3A		4A		4C	4F
系統	有機リン	フェニルピラゾール	ピレスロイド		ネオニコチノイド		スルホキシイミン	ピリジリデン
成分	MEP	エチプロール	エトフェンプロックス	シラフルオフェン	ジノテフラン	クロチアニジン	スルホキサフロル	フルピリミン
薬剤	スミチオン	キラップ	トレボン	MR.ジョーカー	スタークル	ダントツ	エクシード	エミリア
					アルバリン			

〈粒剤を基幹とした防除事例〉

(スタークル／アルバリンを用いた事例)

粒剤散布時の注意事項

- ・スタークル／アルバリン粒剤は水溶性が高く流亡しやすいため、水深3cm程度の湛水状態で散布し、その後自然落水するまで、水を落とさない。
- ・スタークル／アルバリン粒剤・粉剤DLともに、使用量は10a当たり3kgとする。
- ・額縁防除を行う場合は、水田内幅3mの額縁部のみ10a当たり3kg相当を散布し、過剰散布にならないよう、注意する。
- ・斑点米多発米地域では、粒剤だけの防除では効果が不十分であるため、粒剤散布7日後頃に必ず粉剤による補完防除を行う。

※ 粒剤、粉剤とも防除時期が遅れると、効果が著しく低下するので、注意する。

例年の斑点米発生状況	薬 剤 名	散布時期・量	散布方法
少発生地域 斑点米率 0.2%未満 粒剤の額縁散布	(スタークル粒剤 アルバリン粒剤)	出穂7日後頃 3m×100m=3a 当たり0.9kg	水田内周辺部、幅3mのみ 額縁散布する。
中発生地域 斑点米率 0.2%～0.4% 粒剤の全面散布	(スタークル粒剤 アルバリン粒剤)	出穂7日後頃 10a 当たり3kg	水田内全面散布する。
多発生地域 斑点米率 0.4%～0.7% 粒剤の全面散布と 粉剤散布の体系防除	(スタークル粒剤 アルバリン粒剤) (スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL)	出穂7日後頃 10a 当たり3kg 粒剤散布7日後頃 10a 当たり3kg	水田内全面散布する。 水田内全面散布する。

福井農試調べ

休耕田におけるカメムシ防除

薬 剤 名	使用濃度	10アール 当たり使用量	注 意 事 項
(アルバリン粉剤DL スタークル粉剤DL)		3kg 3kg	・ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田。 ・茎葉に薬剤が十分かかるように散布する。 ・越冬後の増殖を抑えるために、6～7月に防除する。
(アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤)	2,000倍 2,000倍	60～150ℓ 60～150ℓ	
スミチオン粉剤3DL		3～4kg	
スミチオン乳剤	1,000倍	60～150ℓ	
ダントツ粉剤DL		3～4kg	
ダントツH粉剤DL		3～4kg	
ダントツ水溶剤	4,000倍	60～150ℓ	
トレボン粉剤DL		3～4kg	
トレボン乳剤	2,000倍	60～150ℓ	
キラップ粉剤DL		4kg	
キラップフロアブル	2,000倍	60～200ℓ	
エクシードフロアブル	2,000倍	60～150ℓ	

(6) 成果情報

積雪前の除草剤散布で斑点米が激減

1 はじめに

これまでの斑点米の防除は、水稻の生育期間中にカメムシ類の住み家となる畦畔雑草の除草や水田内の殺虫剤散布によるものでした。しかし、これらの作業は、田植えなどの作業と競合したり、梅雨や高温の時期と重なり、重労働となっています。そこで、斑点米を減らすだけでなく、水稻生育期間中の防除作業も軽減できる新たな防除技術を開発しました。

2 技術の効果

- ①斑点米の発生抑制
- ②防除コストの低減
- ③防除作業の分散と省力化
- ④農薬の使用回数の削減などの効果

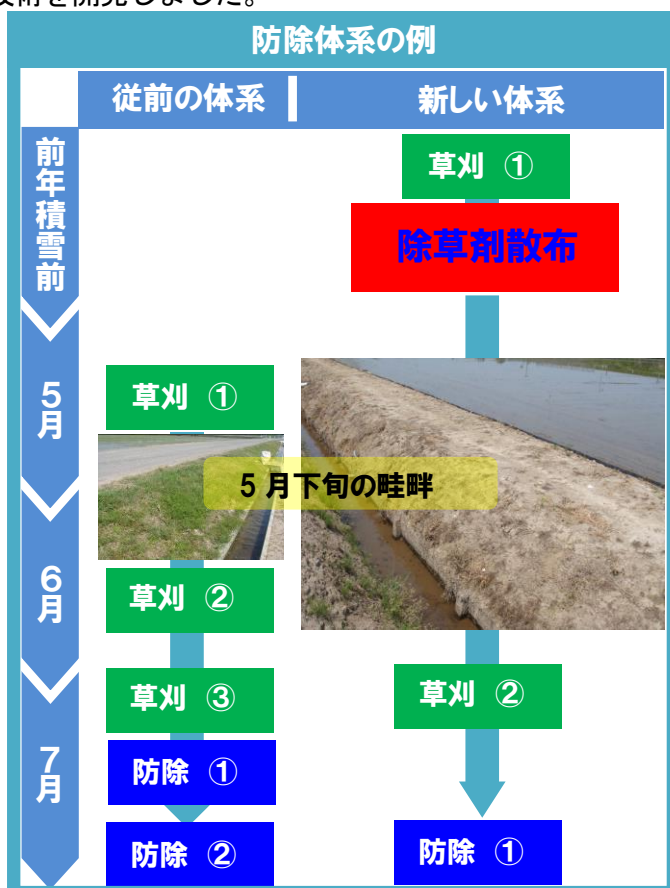
慣行防除体系(除草作業3回+殺虫剤散布2回)の防除コストが10アール当たり約4,500円に比べ、この新防除体系は、10アール当たり約3,000円と、コストが約30%削減できます。

3 薬剤散布の方法

- ① 薬剤名：カソロン粒剤 4.5
- ② 散布時期：11月下旬～積雪前
- ③ 散布量：8kg/10a



ムラ散布のないよう均一に散布
連続圃場で広域的に散布すると効果大



4 積雪前のカソロン粒剤散布によるカメムシ類の発生抑制効果

積雪前にDBN粒剤を散布した畦畔では、6月下旬に雑草が再生してきても、カスミカメムシ類(第1世代)発生がみられず、高い発生抑制効果があります(表)。

表 カソロン粒剤散布とカメムシ類の発生調査結果(2012 福井農試)

調査地	DBN 剤散布	カスミカメムシ類(頭)	
	12月上旬	成虫	幼虫
N地区	有	0	0
	無	157	0

調査月日：平成24年6月25日

調査方法：20回往復すくい取り調査

5 積雪前のカソロン粒剤散布を基幹とした防除体系事例の斑点米の発生と防除コスト

防除方法	畦畔除草(草刈り)			水田での殺虫剤散布		斑点米発生率(%)	防除コスト(円/10a)
	5月中旬	6月中旬	7月上旬	穂揃期	傾穂期		
新しい体系	—	—	○	—	○	0.073	3,000
従来の体系	○	○	○	○	○	0.084	4,500
無防除	—	—	—	—	—	0.349	—

育苗箱施薬でカメムシ防除！

1 はじめに

近年、殺虫成分の溶出を制御するなどの製剤の改良により、従来の育苗箱施薬剤に比べ効果が持続し、初期害虫だけでなく、斑点米カメムシ類にも防除効果が期待できる新しい育苗箱施薬剤が開発されています。しかし、本県ではこれらの溶出調整型育苗箱施薬剤の使用事例は少ないため、本県で発生が多い斑点米カメムシ類に対する防除効果を検証しました。

2 溶出調整型育苗箱施薬剤（デジタルメガフレア箱粒剤）の特長

- (1) 箱処理剤で斑点米カメムシ類も防除が可能
- (2) 防除回数が減り省力化を実現
- (3) 本田散布に比べ、天候の影響を受けず効果が安定
- (4) ヤゴなどの水生動物に対する影響が少ない



図1 アカスジカスミカメ成虫

3 斑点米の発生抑制効果

ハナエチゼンの斑点米の発生量は、溶出調整型育苗箱施薬剤のデジタルメガフレア箱粒剤は、慣行の無人ヘリによるダントツフロアブルの2回散布よりも発生が少なく、高い防除効果が検証されました（表1）。

いちほまれでもデジタルメガフレア箱粒剤は、高い防除効果が確認されました（表2）

以上のことから、溶出調整型育苗箱施薬剤であるデジタルメガフレア箱粒剤の斑点米の発生抑制効果は、防除時期の降雨などの気象条件による影響もなく、安定した効果が得られることが実証されました。また、早生品種のハナエチゼンから熟期の遅いいちほまれまで、県内で栽培されている主要な品種について、幅広い作型に対応可能であることがわかりました。

表1 溶出調整型育苗箱施薬の斑点米発生抑制効果 品種：ハナエチゼン

薬剤名	調査粒数	斑点米粒数				合計	斑点米発生率 (%)
		頂部	側部しみ状	斑点	合計		
デジタルメガフレア箱粒剤	24004	4	2	1	7	0.03	
ファーストオリゼプリンス箱粒剤	22760	12	8	5	25	0.11	
無処理	18790	9	6	4	19	0.10	

注) 出穂期：7月16日 収穫期：8月20日

無人ヘリ防除：ファーストオリゼプリンス箱粒剤、無処理は7月22日、7月30日にダントツフロアブル24倍液を800ml/10a散布

表2 溶出調整型育苗箱施薬の斑点米発生抑制効果 品種：いちほまれ

薬剤名	調査粒数	斑点米粒数				合計	斑点米発生率 (%)
		頂部	側部しみ状	斑点	合計		
デジタルメガフレア箱粒剤	26531	6	7	1	14	0.05	
Dr.オリゼフェルテラグレート箱粒剤	24119	16	11	2	29	0.12	
無処理	27575	14	10	3	27	0.10	

注) 出穂期：8月5日 収穫期：9月8日

すべての処理区において生育期間中は無防除で行った。

図2 側部しみ状の斑点米



本技術導入の際は、生育期の防除も含め、広域的な防除計画を立てて行ってください。

秋の田起こしと冬の湛水によるニカメイガの防除法

1 はじめに

ニカメイガは、イネの茎を食害し、収量・品質を低下させる害虫です（写真1、2）。県北部で発生が多く、被害を受けています。

そこで、秋の田起こし（耕起）と湛水により、翌年の発生源となる越冬幼虫を防除します。



写真1 幼虫



写真2 被害（白穂）

2 秋の田起こしと冬の湛水で越冬幼虫を減らす

秋の田起こし（耕起）と冬の湛水により、幼虫の越冬場所である刈り株や稲わらを埋没させることで、越冬幼虫を減らすことができます（表1）。

(1) 田起こし（耕起） [10月]

刈り株を細かく粉碎し、稲わらを十分にすき込むため、ゆっくり深く耕うんします。（深さ15cm、速度1km）

(2) 湛水 [11月下旬から2月末まで]

冬期間に降雨をためて稲わら等を水没させるため、暗きよを閉めます。湛水の目安は、土壌表面の半分が見え隠れする程度です（写真3）。湛水は幼虫が休眠して動かなくなる11月下旬に実施し、2月末まで続けます。

3 コンバイン収穫時に幼虫を減らす

収穫時にコンバインの排わら長を短く（8cm以下）設定したり、地際部から刈り取ると、田起こし前に幼虫を少なくすることができ、より効果的です。



写真3 水田の湛水状況

4 作業時間

10aあたりの作業時間は、土づくりのために従来より行っている「田起こし」（25分）に加え、「暗きよの開閉」（2分）のみです。

表1 田起こし（耕起）および湛水による越冬幼虫の防除効果

処理区	1 m ² あたりの幼虫数（頭）		生存率 ³⁾ （%）	無処理比
	処理前（10月）	処理後（3月）		
耕起 ¹⁾ +湛水 ²⁾	8.3	0.7	8.4	12
耕起 ¹⁾	11.1	2.3	20.7	31
無処理	9.9	6.7	67.7	100

1) 10月下旬に通常ロータリーで耕起

2) 11月下旬から2月末まで暗きよを閉める

3) 処理後の幼虫数/処理前の幼虫数×100

(7) 病害虫の要防除水準

圃場内での調査を行い、病害虫の発生状況を的確に把握した上で、要防除水準に基づく、効率的な防除を実施し、環境負荷の少ない防除を推進する。

紋枯病

1 要防除水準

早生（7月下旬出穂ハナエチゼン）では穂ばらみ期（7月中旬頃）の発病株率が10%以上であれば、中生（8月上旬出穂コシヒカリ）では7月下旬の発病株率が20%以上であれば5%減収するので防除を行う。

2 調査方法

穂ばらみ期に1圃場あたり100株の発病株率を調査する。

イネミズゾウムシ

1 要防除水準

(1) 前年の発生密度が100株あたり成虫50頭以上の場合は育苗箱施薬を実施する。

(2) 育苗箱施薬を行った場合

5月20日頃（本田侵入期）の成虫数が100株あたり80頭以上の場合は、薬剤を散布する。

(3) 育苗箱施薬を行わなかった場合

5月20日頃（本田侵入期）の成虫数が100株あたり30頭以上の場合は、薬剤を散布する。

また、漏水田や砂質土壌田では同時期に成虫数が100株あたり20頭以上の場合は粉剤を散布し、50頭以上の場合はさらに7日後にも粉剤を散布する。

2 調査方法

本田侵入期の5月20～25日に畦畔から1m内部に入った所の株を見とり調査する。

セジロウンカ

1 要防除水準

6月末～7月中旬に飛来成虫数で1株あたり4頭以上、7月下旬～8月上旬（幼虫加害盛期）に幼虫数で1株あたり30～40頭以上の場合は薬剤を散布する。

2 調査方法

6月末～7月中旬と7月下旬～8月上旬に水田内部の3か所以上で株の払い落とし、または見とり調査を行う。

トビイロウンカ

1 要防除水準

8月初めに短翅成虫数で1株あたり0.1頭以上、8月中旬に成幼虫数で1頭以上、9月中旬に幼虫数で40頭以上の場合は薬剤を散布する。

2 調査方法

8月初めと8月中旬に1水田あたり3か所以上で株の払い落とし、または見とり調査を行う。

イチモンジセセリ（イネツトムシ）

1 要防除水準（直播栽培）

7月下旬（若齢幼虫期）の若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。

2 調査方法

7月下旬に1水田あたり1㎡（1m×1m）を5か所程度の見とり調査を行う。

イネアザミウマ（黒点米）

1 要防除水準

出穂前のすくいとり調査で、成虫が100頭以上すくいとられた場合は防除する。

2 調査方法

早生品種の出穂7日前頃に水田内の畦畔沿いを20回往復すくいとり調査を行う。

(8) 福井県稲奨励品種等病害虫抵抗性一覧

品 種 名		病 害 虫 名				
		葉いもち	穂いもち	白葉枯病	紋 枯 病	イネカラバエ
う る ち 米	ハナエチゼン	中	中	やや弱	中	中
	フクヒカリ	中	中	やや弱	やや弱	中
	コシヒカリ	弱	やや弱	やや弱	中	強
	イクヒカリ	中	中	中	やや弱	強
	キヌヒカリ	中	中	中	中	強
	あきさかり	やや弱	中	弱	やや弱	—
	いちほまれ	強	強	弱	中	—
	日本晴	中	やや強	中	中	強
酒 米	五百万石	中	中	中	中	強
	おくほまれ	中	弱	中	中	強
	さかほまれ	弱	弱	—	—	—
も ち 米	恵 糯	強	強	中	中	強
	カグラモチ	中	中	中	中	強
	タンチョウモチ	強	中	中	中	強

(9) 農業資材の消毒

薬 剤 名	使 用 方 法			注 意 事 項
	対 象	希釈倍数(倍)	使用方法	
イチバン	育苗箱 (木箱、プラスチック箱) 育苗用ポット 支柱等資材	500～1,000倍	瞬時浸漬 または ジョロ散布	<ul style="list-style-type: none"> ・湿熱で60℃60分間、65℃30分間消毒してもよい。 ・イチバンは水稻育苗箱消毒後の水洗、乾燥は不要。
ケミクロンG	催芽箱、育苗箱、育苗 トレイ・ポット、植木鉢、 果実類貯蔵箱、温室用 資材、収穫用かご等農 具の消毒	1,000倍	10分間 浸漬	<ul style="list-style-type: none"> ・ケミクロンGは農業資材消毒後はきれいな水で水洗し、水切り乾燥する。 ・金属類や木箱に使用した場合、必ずその後水洗する。 ・消毒後の液は河川、用排水路、池などに流さず、適正に処理する。
		500倍	瞬時浸漬 または ジョウロ散布	

2 水稻除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 土壌条件に応じた安全な除草剤の選定
除草剤ごとに定められた適用地帯、適用土壌の範囲で使用する。特に極端に減水深の大きい圃場や強還元田などでは薬害が発生しやすいので、土壌条件に合った安全な除草剤を選ぶ。
- ② 適期・適量で均一に散布
イネの生育状況と雑草の発生実態に合わせ適期、適量散布を基本とする。
除草剤の散布時期の誤りや多量散布、むらまきなどは効果が劣ったり、薬害発生の原因となるので、処理時期を見定め、基準量を守って均一に散布する。
- ③ 除草剤の排水路等への流出防止
散布後は水田表面の土が露出しないよう処理後7日間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
畦畔の野生動物が破損した箇所や小動物が開けた穴を補修したり、畦畔シートを使うなど、畦畔整備で、畦畔からの漏水をなくす。水田外への農薬流出防止のためにも、畦畔や水尻からオーバーフローさせない。
散布後の水管理では、止水管理の実施も考慮する。
- ④ 薬剤や成分ごとの使用回数の厳守
薬剤だけでなく成分ごとにも使用回数の上限が定められているので、それを確認し、絶対に守る。
- ⑤ 健苗の育成と適正な植付け
軟弱徒長苗は活着および初期生育が悪く、除草剤の薬害を受け易いので健苗育成につとめる。また極端な深植、浅植も活着の遅れや薬害を受け易いので適正な植付けを行なう。
- ⑥ 水管理の徹底と生育の健全化
田面の均平化につとめ、極端な深水にならないよう注意する。また活着後の初期生育を促進するため、地温を高めるように水管理を行い、生育の健全化を図る。
- ⑦ 生育障害の発生防止
極端な漏水田、強還元田、未熟有機物の多用田などでは薬量を減量するか、もしくは使用を避ける。
- ⑧ 散布作業における安全確保
人体への毒性が強い薬剤もあるので、体調が十分の時を選んで作業し、取扱いや散布作業の際は手袋、マスク、防塵めがね等を着用する。また、作業中の転倒、落下等の事故にも注意する。
- ⑨ 環境の保全
除草剤の散布はできるだけ風の弱い日に行い、付近の作物、動物への飛散や流失による危被害及び使用時の事故を防止する。さらにできるだけ飛散しにくい剤型の除草剤を選択するとともに、液剤や水和剤を散布する場合には、飛散低減ノズルを使用する。

(2) 除草剤の使用法

同一成分（系列）薬剤の数年間の連続施用により、特定雑草の優占化や抵抗性雑草の発生を助長することがあるので、適宜体系処理（初期剤＋中期剤）も組み合わせるなどして特定雑草の優占化等を予防する。

(3) 田植え同時処理剤の使用法

- ① 「移植時」登録のある除草剤を使用し、除草剤の剤型と散布機との適合性を作業前に確認する。
使用時期が「移植直後」となっている除草剤は、田植え同時処理に使用できず、「移植時」として登録のある除草剤でなければ田植え同時処理に使用することはできない。使用に当たっては、必ずラベルを確認するなど、十分注意する。
- ② 除草効果を高め薬害を軽減するために、田植え時に落水しても土壌表面の土を固めすぎないようにする。
(根が露出したり、転び苗となると薬害発生につながる。)
- ③ 散布にあたっては、基準量を守って散布するよう、散布前に必ず機器の調整を行う。作業中にも

散布量や散布幅等が適正かを確認する。雨天時作業では、水分や湿気で薬剤が固まることがあるので避ける。

- ④ 移植後は速やかに入水を開始し、移植後24時間以内には目標の水深となるようにする。(急激な入水では水口付近の効果が劣ることもあるので注意。) 散布後7日程度は落水やかけ流しは絶対に行わない。
- ⑤ 除草剤散布後の補植は極力行わない。
- ⑥ 苗箱施薬用殺虫殺菌剤散布機も付いている田植機では、薬剤とそれを入れる散布機の組み合わせを、絶対に間違えないように注意する。

(4) 少量散布粒剤の使用法

少量散布粒剤の処理方法には、手持ちの散布器具を使用するの簡便散布や畦畔からの周辺散布、または無人ヘリコプターによる散布がある。

- ① 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水し、湛水散布の場合は水田全面に行きわたるよう、また周辺散布の場合は水田周辺部に沿って帯状に散布する。
- ② 藻類の発生等により、剤の拡散が不十分になることが予想される場合には、周辺散布を避け、本田内で水田全面に散布する。

(5) フロアブル剤の使用法

フロアブル剤の使用法には、手振り散布、田植同時滴下処理(「移植時」登録のある除草剤に限る、田植同時散布機を用いる)または水口流入処理(登録のある除草剤に限る)がある。

- ① 田面の均平にあたっては粒剤を使用するとき以上に均平化に心がける(しろの掻き過ぎに注意)。
- ② 散布前に容器を軽く振り、原液のまま散布する。散布にあたっては水深を十分確保し、散布後3日間は湛水する。
- ③ 表層剥離やアオミドロの発生田は、水稻の生育が抑制され、除草効果が劣るので使用を控える。
- ④ 強風時の処理は、除草効果にムラを生じやすいので行わない。
- ⑤ 散布後2日以内に大雨が予想される時は使用を避ける。
- ⑥ 幅30mまでの水田の場合は、畦から散布する。幅40mの水田では畦畔からの散布に加え、水田中央に1列散布する。
- ⑦ 水口流入処理は、パイプ灌漑を原則とし、5時間以内に4～5cmの湛水深が確保できる圃場に限る。
- ⑧ 顆粒剤については、専用容器に規定量を清澄な水で希釈しムラなく散布する。

(6) ジャンボ剤の使用法

- ① ジャンボ剤の投げ込みについては、田面が露出しないように5～6cmの湛水止水として下手投げで均等に拡散するように投下する。
- ② 表層剥離やアオミドロがすでに発生している場合は、成分の拡散が阻害され、水稻に生育抑制が生じ、除草効果が得られない危険があるので、使用を控える。
- ③ パックは濡れた手で扱わない。
- ④ 強風時や大雨時の使用も避ける。その他の注意事項は、他の剤型に準ずる。

(7) 本田除草剤の使用方式 (移植) RPA

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 初期 剤	アケース1キロ粒剤	0,15	1kg/10a	植代後～移植7日前または移植直後～/レ I1.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	かねつぐ1キロ粒剤	15,2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/レ I1.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
	シグ 乳剤	18(F*)、15	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			300mL/10a(少量散布)	移植直後～/レ I1葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布	1回
	ソルネット1キロ粒剤	15	1kg/10a	移植直後～/レ I1葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布	1回
	ピラクロプロアール	14	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ベクサープロアール	14	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内
			500mL/10a	植代後～移植前7日または移植直後～/レ I発生開始 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	2回以内
	マジエツジ ジャンボ	15	小包装(パック)10個(500g)/10a	植代後～移植前7日または移植後1日～/レ I1葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	マツタジ ジャンボ	0,15	5～10個(250～500g)/10a	移植直後～/レ I1葉期 但し、移植後30日まで	水口施用	1回
			5～10個(250～500g)/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～/レ I1葉期 但し、移植後30日まで	水田に投げ入れる。	1回
	マツタ1キロ粒剤	14	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内
1kg/10a			植代後～移植前7日又は移植直後～/レ I1葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	2回以内	
マツタジャンボ	14	小包装(パック)10個(300g)/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～/レ I1葉期 但し、移植後30日まで	水口施用又は水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 初期 剤	メテオアブール	14	500mL/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～ ^レ I1葉期 但し、 移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	2回以 内
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以 内
移植 一発 処理 剤	兆アブール	14	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	アックス MX1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植直後～ ^レ I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
			1kg/10a	移植後7日～ ^レ I4葉期 ただし、収穫45日前まで	湛水散布	1回
	アッシュ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植後7日～ ^レ I4葉期 ただし、収穫45日前まで	無人 ^レ リコ ^レ ターによる散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	アッシュジャンボ	14,2, 27	1kg/10a	移植直後～ ^レ I4葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植直後～ ^レ I4葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
アッシュアブール	14,2, 27	500mL/10a	移植直後～ ^レ I4葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
		500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
アッシュ1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植直後～ ^レ I2.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	アビロウMX1キロ粒 剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	イネソグ 1キロ粒剤	14,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イネソットEW	14,15	500mL/10a	植代後～移植前7日または移植直後～/レ I1葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布	1回
		14,15	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	イネロア-1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	移植直後～/レ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	イネロア-7-1キロ粒剤	0,14, 2	400g/10a	移植直後～/レ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
			小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植直後～/レ I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	イネソグ 1キロ粒剤	15,27 ,4	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/レ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イノトリオ1キロ粒剤 51(失効)	0,15, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布	1回
	ウイソグ 1キロ粒剤	0,15, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/レ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	カルテイルZ1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 I3.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カルテイルZジャンボ	2,27, 33	小包装(パック)10 個(350g)/10a	移植後5日～/比 I3葉期ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カルテイルZ7077アル	2,27, 33	500mL/10a	移植後5日～/比 I3葉期ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	エンペラーZジャンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(250g)/10a	移植直後～/比 I3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	エンペラー7077アル	14,2, 27	500mL/10a	移植直後～/比 I3葉期但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	エンペラー豆つぶ250	14,2, 27	250g/10a	移植直後～/比 I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	カクソルエナジ-1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カクソルエナジ-ジャンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植直後～/比 I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カクソルエナジ-7077アル	15,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～/比 I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	カクシコロンブ [®] リート1キロ粒 剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	カクシコロンブ [®] リート3.5葉期 ホ	2,27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カクシコロンブ [®] リート3.5葉期 ホ	2,27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	移植後5日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カクシコロンブ [®] リート7077 [®] ル	2,27	500mL/10a	移植後5日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	カクシコロンブ [®] リート1キロ粒 剤	15,2	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	カクシコロンブ [®] リート1キロ粒 剤	15,2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	カクシコロンブ [®] リート1キロ粒 剤	15,2	小包装(パック)10 個(250g)/10a	移植後3日～/比 [®] I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カクシコロンブ [®] リート250	15,2	250g/10a	移植後3日～/比 [®] I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	キラリ1キロ粒 剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	キラリ1キロ粒 剤	14,2, 27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	キラリ400FG	14,2, 27	400g/10a	移植直後～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	キラリ7077 [®] ル	14,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	キラリ7077 [®] ル	14,2, 27	500mL/10a	移植直後～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
移植 一発 処理 剤	クラー1キロ粒剤	15,5	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
			1kg/10a	植代後～移植7日前又は移植直後～/レ I1.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
	クラーEW	15,5	500mL/10a	植代後～移植7日前又は移植直後～/レ I1.5葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布	1回	
	コイモジ1キロ粒剤	0,15, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	コイモジ [®] ヤンボ	0,15, 2	小包装(パック)10 個(300g)/10a	1kg/10a	移植直後～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
					移植直後～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	コイモジ [®] アール	0,15, 2	500mL/10a	500mL/10a	移植直後～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
				500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	コメット1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
				1kg/10a	移植直後～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	コメット [®] ヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	1kg/10a	移植後5日～/レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	コマット顆粒		80g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
		14,2, 27	80g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
			80g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期ただし、収穫60日前まで	顆粒水口施用	1回
	サカガケ楽粒	15,27 ,4	250g/10a	移植直後～/比 I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	サスリ剤I200	0,15, 2,27	200g/10a	移植後3日～/比 I2葉期ただし、移植後30日まで	水口施用、湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	サラレット KA11キロ粒 剤	0,14, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	サラレット RX707アール	0,2,4	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 但し移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
	ジエノケル1キロ粒剤	15,27 ,33	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 I2.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ジエノケルジヤンボ	15,27 ,33	小包装(パック)10 個(450g)/10a	移植後1日～/比 I2.5葉期ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジエノケル707アール	15,27 ,33	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～/比 I2.5葉期ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
移植 一発 処理 剤	ジェイブント [®] 1キロ粒剤	0,14, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	ジェイブント [®] 400FG	0,14, 27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
	ジェイブント [®] ジャンボ	0,14, 27	400g/10a	移植後5日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
	ジェイブント [®] ジャンボ	0,14, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植後5日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
	ジェイブント [®] 7077 [®] ル	0,14, 27	500mL/10a	移植後5日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回	
	シグナス1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
	シグナスジャンボ	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	シグナスジャンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	移植後1日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
	シグナス7077 [®] ル	15,2, 27	500mL/10a	移植後1日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	
	シグナス1キロ粒剤 クサケエボン1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	シグナルMX1キロ粒 剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	シグナルMX豆つぶ 250	2,27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
			2,27	250g/10a	移植後3日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	シュガデ 1キロ粒剤	2,27	1kg/10a 1kg/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで 移植時	湛水散布又は無人航空機による散布 田植同時散布機で施用	1回 1回
	シュガデ ジンヤンボ	2,27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植後3日～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シュガデ 707アブル	2,27	500mL/10a	移植後3日～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	シンゲキ1キロ粒剤	15,27	1kg/10a 1kg/10a	移植時 移植直後～/比 I2.5葉期 但し、移植後30日まで	田植同時散布機で施用 湛水散布	1回 1回
	シンゲキジンヤンボ	15,27	小包装(パック)10 個(250g)/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シンゲキ707アブル	15,27	500mL/10a 500mL/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 但し、移植後30日まで 移植時	原液湛水散布 田植同時散布機で施用	1回 1回
	シンズイZ1キロ粒剤	0,2,2 7	1kg/10a 1kg/10a	移植時 移植直後～/比 I4葉期 但し、移植後30日まで	田植同時散布機で施用 湛水散布又は無人航空機による散布	1回 1回
	シンズイZ707アブル	0,2,2 7	500mL/10a	移植後3日～/比 I4葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
	シンズイZ豆つぶ250	0,2,2 7	250g/10a	移植後3日～/比 I4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ストロングス1キロ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	移植後5日～/比 I4葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以 内
	ゼータジンヤカ-1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a 1kg/10a	移植直後～/比 I4葉期 ただし、移植後30日まで 移植時	湛水散布 田植同時散布機で施用	1回 1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	ゼンタタカ-1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	移植直後～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ゼンタタカ-300FG	0,14, 2	300g/10a	移植後3日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼンタタカ-ジヤンボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(300g)/10a	移植後3日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゼンタタカ-70777ル	0,14, 2	500mL/10a	移植後3日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ゼンタタカ-1キロ粒剤	14,2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ゼンタタカ-1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植直後～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼンタタカ-1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ゼンタタカ-1キロ粒剤	2,27	小包装(パック)10 個(200g)/10a	移植後3日～/比 I4葉期 ただし、移植後30日まで	水口施用又は水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゼンタタカ-70777ル	2,27	500mL/10a	移植後3日～/比 I4葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ダブルスター-SB顆粒	15,2, 27	80g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	顆粒水口施用	1回
			80g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
			80g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ダクンジョット70777ル	15,27, 4	500mL/10a	移植後3日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ツルギ 250粒剤	15,2, 27	250g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	ツルギジヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(250g)/10a	移植直後～/比 I2.5葉期但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	デイオレ1キロ粒剤	0,2,2 7	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	デイオレジヤンボ	0,2,2 7	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植直後～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	デイオレ77077アル	0,2,2 7	500mL/10a	移植後1日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	デイオレ顆粒	0,2,2 7	80g/10a	移植後1日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ドニフS1キロ粒剤	0,15, 2	80g/10a	移植後3日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ドリ71キロ粒剤	15,2, 4	1kg/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	顆粒水口施用	1回
	ハッチリ1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	移植時	湛水散布	1回
				移植時	田植同時散布機で施用	1回
				移植時	田植同時散布機で施用	1回
				移植直後～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
				移植時	田植同時散布機で施用	1回
				移植時	田植同時散布機で施用	1回
				移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	ハッチジヤボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハッチリアアール	0,14, 2	500mL/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ハッチリ400FG	0,14, 2	400g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリX1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			400g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリXジャボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリZ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植後3日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
移植 一発 処理 剤	ビクトリ-Z400FG	14,2	400g/10a	移植後5日～/ビ I3葉期ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
	ビクトリ-Zジヤンボ	14,2	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植後5日～/ビ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内	
	ビクトリ-Z707アール	14,2	500mL/10a	移植後5日～/ビ I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる滴下	1回	
	フルニク スカイ500グラム粒剤	14,15,2,27	500g/10a	移植後7日～/ビ I4葉期但し収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
	フルスコアZ1キロ粒剤	「-」,2	1kg/10a	移植後5日～/ビ I3.5葉期但し収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
	フルスコアZジヤンボ	「-」,2	小包装(パック)10個(300g)/10a	移植後5日～/ビ I3.5葉期但し収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
	フルチャージジヤンボ	14,2	小包装(パック)10個(500g)/10a	移植後5日～/ビ I4葉期 但し収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
	フルパワー-MXジヤンボ	14,2,27	小包装 (パック) 10個 (500g)/10a	移植後1日～/ビ I3.5葉期但し収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
	バック1キロ粒剤		15,2,27	1kg/10a	移植直後～/ビ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
				1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
				1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ベルガ1キロ粒剤		2,27	1kg/10a	移植直後～/ビ I3葉期但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
				小包装(パック)10個(250g)/10a	移植直後～/ビ I3葉期但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
ベルガ 豆つぶ250		2,27	250g/10a	移植直後～/ビ I3葉期但し、収穫75日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	ホットコンヒ [®] 200粒剤	15,27	200g/10a	移植直後～/比 [®] I2葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ホットコンヒ [®] ジ [®] ヤンボ [®]	15,27	小包装(パ [®] ック)10個(200g)/10a	移植直後～/比 [®] I2葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
	ボ [®] テ [®] -カ [®] -ト [®] フ [®] ロ [®] 1キ [®] ロ [®] 粒剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ボ [®] テ [®] -カ [®] -ト [®] フ [®] ロ [®] ジ [®] ヤンボ [®]	2,27	小包装(パ [®] ック)10個(300g)/10a	移植直後～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ボ [®] テ [®] -カ [®] -ト [®] フ [®] ロ [®] 7ア [®] ブル	2,27	1kg/10a	移植後5日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
	ボ [®] テ [®] -カ [®] -ト [®] フ [®] ロ [®] 7ア [®] ブル	2,27	500mL/10a	移植後5日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ボ [®] ラ [®] ン [®] テ [®] イ [®] ア [®] ジ [®] ヤンボ [®]	15,2,27	小包装(パ [®] ック)10個(400g)/10a	移植後5日～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
	マ [®] ス [®] 7ア [®] 7キ [®] ロ [®] 粒剤	2,27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	マ [®] ス [®] 7ア [®] 7キ [®] ロ [®] 粒剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	マ [®] ス [®] 7ア [®] 7キ [®] ロ [®] 粒剤	2,27	小包装(パ [®] ック)10個(200g)/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
	マ [®] ス [®] 7ア [®] 7キ [®] ロ [®] 7ア [®] ブル	2,27	500mL/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	マ [®] ス [®] 7ア [®] 7キ [®] ロ [®] 7ア [®] ブル	2,27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	メ [®] カ [®] -ゼ [®] -タ [®] 1キ [®] ロ [®] 粒剤	14,2	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコ [®] プター [®] による散布	2回以内
	メ [®] カ [®] -ゼ [®] -タ [®] 400FG	14,2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内
メ [®] カ [®] -ゼ [®] -タ [®] ジ [®] ヤンボ [®]	14,2	400g/10a	移植後5日～/比 [®] I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
メ [®] カ [®] -ゼ [®] -タ [®] ジ [®] ヤンボ [®]	14,2	小包装(パ [®] ック)10個(400g)/10a	移植後5日～/比 [®] I3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	2回以内	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	メカゼータ7077フル	14,2	500mL/10a	移植後5日～/比 I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる滴下	1回
	ライジンパ7-ジャンボ	14,15,27	小包装(パック)10個(500g)/10a	移植後3日～/比 I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ライジンキ0粒剤	0,15,2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ワザアリ薬粒	15,27	250g/10a	移植直後～/比 I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
	銀河1キ0粒剤	0,14,2	1kg/10a	移植直後～/比 I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	銀河ジャンボ	0,14,2	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植直後～/比 I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	先陣200FG	14,5	200g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	先陣ジャンボ	14,5	小包装(パック)10個(200g)/10a	移植後5日～/比 I3葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	天空1キ0粒剤	15,2,27	1kg/10a	植代後～移植7日前又は移植直後～/比 I1葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
				移植時	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
				移植直後～/比 I3葉期 但し、移植後30日まで	田植同時散布機で施用	1回
				移植直後～/比 I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
				移植後1日～/比 I3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	天空7077 [®] ル	15,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	忍1 [®] 粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	忍ジ [®] ヤンボ	14,2, 27	小包装(パ [®] ック)10 個(200g)/10a	移植直後～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
			500mL/10a	移植直後～/比 [®] I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	忍7077 [®] ル	14,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	流星1 [®] 粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植直後～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植後3日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
	流星ジ [®] ヤンボ	14,2, 27	小包装(パ [®] ック)10 個(400g)/10a	移植後3日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ [®] ック)のまま投げ入れる。	1回
	流星7077 [®] ル	14,2, 27	500mL/10a	移植後3日～/比 [®] I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 中期 剤	アトガS [®] ジャンボ [®] MX	2,27	小包装(パック)20 個(500g)/10a	移植後14日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アトリ1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～/比 [®] I4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アトリ豆つぶ250	2	250g/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～/比 [®] I4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アトリSC	2	500mL/10a	移植後20日～/比 [®] I5葉期 ただし、収穫45日前まで	湛水散布又は落水散布	1回
	ウイートコア1キロ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	移植後7日～/比 [®] I4葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以 内
	ウイートコア200SD粒剤	2,27, 4	200g/10a	移植後10日～/比 [®] I4葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	2回以 内
	ウイートコアジャンボ [®] SD	2,27, 4	小包装(パック)10 個(200g)/10a	移植後10日～/比 [®] I4葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以 内
	ゲハート [®] 1キロ粒剤	0,14, 2,27	1kg/10a	移植後14日～/比 [®] I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゲハート [®] ジャンボ [®]	0,14, 2,27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植後14日～/比 [®] I4葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ツイゲ [®] MF1キロ粒剤	1,2,4	1kg/10a	移植後20日～/比 [®] I4.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以 内
	セカントショットS [®] ジャンボ [®] MX	2,27	小包装(パック)20 個(500g)/10a	移植後14日～/比 [®] I3.5葉期 ただし、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ツイゲ [®] 1キロ粒剤	2,27, 5	1kg/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～/比 [®] I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
	ツイゲ [®] キ豆つぶ250	2,27, 5	250g/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～/比 [®] I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 中期 剤	テック1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植後15日～/レ` I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	テックジ`ヤンホ`	2,27	小包装(パ`ック)10個(500g)/10a	移植後15日～/レ` I4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パ`ック)のまま投げ入れる。	1回
	ニトケツ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植後15日～/レ` I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ニトケツジ`ヤンホ`	2,27	小包装(パ`ック)10個(500g)/10a	移植後15日～/レ` I4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パ`ック)のまま投げ入れる。	1回
	パ`イスコ-7` 1キロ粒剤 ルナクロ1キロ粒剤	27,33	1kg/10a	移植後14～60日ただし、収穫45日前まで	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布	1回
	ヒエックパ` エ-ス1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後14日～/レ` I5葉期但し収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコ`プターによる散布	2回以内
	ヒエック-ンパ` サグ`ラン粒剤	2,6	3kg/10a	移植後15日～/レ` I4葉期 但し、収穫60日前まで	ごく浅く湛水して散布	1回
	ブ`イコ`-ルSM1キロ粒剤	2,4,5	1kg/10a	移植後15日～/レ` I3.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
	レブ`ラス1キロ粒剤	0,2,2 7,5	1kg/10a	移植後14日～/レ` I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	レブ`ラスジ`ヤンホ`	0,2,2 7,5	小包装(パ`ック)10個(400g)/10a	移植後14日～/レ` I4葉期ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パ`ック)のまま投げ入れる。	1回
	ロイソト乳剤	4	200mL/10a	移植後20日～/レ` I5葉期 ただし、収穫45日前まで	落水散布、ごく浅く湛水して散布又は湛水散布	2回以内
	ワイド`アタックSC	2	200mL/10a	移植後20日～/レ` I5葉期 ただし、収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	ワイド`パ`7-粒剤	2,6	100mL/10a	移植後20日(稲5葉期以降)～/レ` I6葉期 但し、収穫30日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
			移植後20日～/レ` I5葉期 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植	クリンチャー-1キロ粒剤	1	1.5kg/10a	移植後25日～/比 I5葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
			1kg/10a	移植後7日～/比 I4葉期 但し、収穫30日前まで		
その他	クリンチャー-EW	1	100mL/10a	移植後20日～/比 I4.5葉期 但し、収穫30日前まで	無人航空機による散布	2回以内
			100mL/10a	移植後20日～/比 I6葉期 但し、収穫30日前まで		
	クリンチャー-ジヤンボ	1	小包装(パック)20個(1kg)/10a	移植後7日～/比 I4葉期 但し、収穫30日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内
	クリンチャー-バスメ液剤	1,6	1000mL/10a	移植後15日～/比 I5葉期 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	トドMF1キロ粒剤	1	1kg/10a	移植後14日～/比 I5葉期まで 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	3回以内
	トドMF乳剤	1	200m [㍻] /10a	移植後14日～/比 I7葉期まで 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は落水散布	2回以内
	トドMFスMF液剤	1,6	1000mL/10a	移植後15日～/比 I6葉期 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	バニ-液剤	2	50～100mL/10a	移植後30日～/比 I6葉期の草丈40cmまで 但し、収穫60日前まで 移植後30日～/比 I7葉期の草丈30cmまで 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	バサゲラン・I7-1キロ粒剤	6	1kg/10a	移植後15～55日 但し収穫60日前まで	落水又はごく浅く湛水して無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植	バサラン液剤(ナトリウム塩)	6	500～700mL/10a	移植後15～55日 但し 収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	バサラン液剤(ナトリウム塩)	6	3～4kg/10a	移植後15～55日 但し 収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
その他	ヒエクリン1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後15日～ヒエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ヒエクリン豆つぶ250	2	250g/10a	移植後15日～ヒエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	モグソト粒剤	0	2～3kg/10a	ウキガサ類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
			1～2kg/10a	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
		ワズラーズ1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後15日～ヒエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
	粒状水中MCP	4	3.0～3.5kg/10a	有効分けつ終止期～幼穂形成期前(但し収穫60日前まで)	湛水散布(あらかじめ水田の水の出入りをとめ、湛水のまま10a当り所要量を全面に均一散布する。)	1回

(7) 本田除草剤の使用方式 (直播) RPA

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 初期	ブレイク1キロ粒剤	27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	湛水直播の代かき後～は種7日前またはは種直後～ 比 I1葉期但し収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
剤	ブレイク70777ル	27	300～ 500mL/10a	湛水直播の代かき後～は種7日前またはは種直後～ 比 I1葉期但し収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
			300～ 500mL/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
直播	アックス MX1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲1葉期～比 I4葉期 ただし、収穫45日前まで	無人ヘリコプターによる散布	1回
			1kg/10a	稲1葉期～比 I4葉期 ただし、収穫45日前まで	湛水散布	1回
一発 処理	アッシュ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～比 I4葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～比 I4葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
剤	アッシュ70777ル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～比 I4葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
			1kg/10a	湛水直播のは種直後～比 I1.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イネンク1キロ粒剤	14,27	1kg/10a	湛水直播のは種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	稲1葉期～比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イネリグ1キロ粒剤	15,27 ,4	1kg/10a	稲1葉期～比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～比 I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	イネリグ70777ル	15,27 ,4	500mL/10a	稲1葉期～比 I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	イノバートリオ1キロ粒剤 51(失効)	0,15, 2	1kg/10a	湛水直播のイネ1葉期～レ ^レ I2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	カルテイルZ1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	稲1葉期～レ ^レ I3.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カルテイルZジャンボ	2,27, 33	小包装(パック)10 個(350g)/10a	稲1葉期～レ ^レ I3.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カルテイルZ7077アル	2,27, 33	500mL/10a	稲1葉期～レ ^レ I3.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	エンペラーZジャンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(250g)/10a	稲出芽前期～レ ^レ I3葉期 但し、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	エンペラーZ7077アル	14,2, 27	500mL/10a	稲出芽前期～レ ^レ I3葉期但し、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	エンペラーZ豆つぶ250	14,2, 27	250g/10a	稲出芽前期～レ ^レ I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	オキキ1キロ粒剤	0,2	1kg/10a	は種直後～レ ^レ I3葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	カイシMF1キロ粒剤	1,27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	カウソルエナジ-1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	湛水直播のは種直後～レ ^レ I2.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カウソルエナジ-1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	カウソルエナジ-ジャンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～レ ^レ I3.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カウソルエナジ-リート1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	は種直後～レ ^レ I3.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
				は種時	湛水散布又は無人航空機による散布 は種同時散布機で施用	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	カクシコロソブ リートジヤン ポ	2,27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カクシコロソブ リート7077 ル	2,27	500mL/10a	は種直後～/比 I3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	カレット1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カレット400FG	14,2, 27	400g/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	カレットジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ガンゴン1キロ粒剤	15,2	1kg/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ガンゴンジヤンボ	15,2	小包装(パック)10 個(250g)/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ガンゴン豆つぶ250	15,2	250g/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	キラリ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	キラリ400FG	14,2, 27	400g/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	キラリ7077ル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ゲパードジヤンボ	0,14, 2,27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/比 I4葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	コイエソ1キロ粒剤	0,15, 2	1kg/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	コイエソジヤンボ	0,15, 2	小包装(パック)10 個(300g)/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	コ・エト7077 [®] ル	0,15, 2	500mL/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	コマット1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	コマット顆粒	14,2, 27	80g/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期ただし、収穫60日前まで	顆粒水口施用	1回
		80g/10a	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回		
	サアラ [®] レット GO1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	サアラ [®] レット GO400FG	0,14, 2	400g/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	サアラ [®] レット GOジ [®] ヤンボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	サアラ [®] レット GO7077 [®] ル	0,14, 2	500mL/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	サアラ [®] レット RX7077 [®] ル	0,2,4	500mL/10a	稲1.0葉期～/レ [®] I2.5葉期 但し収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	ジ [®] エイソクル1キロ粒剤	15,27 ,33	1kg/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ジ [®] エイソクルジ [®] ヤンボ	15,27 ,33	小包装(パック)10 個(450g)/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジ [®] エイソクル7077 [®] ル	15,27 ,33	500mL/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ジ [®] エイソレント [®] 1キロ粒剤	0,14, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ [®] I2.5葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	ジエイトラント 400FG	0,14, 27	400g/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ジエイトラント ジャンボ	0,14, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジエイトラント 70777ル	0,14, 27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	ジハック500グラム粒剤	2,27	500g/10a	は種直後～/レ I1.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			500g/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	シグナス1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	シグナス ジャンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シグナス70777ル	15,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	シグナス1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	シグナス1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	は種直後～/レ I3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	シユナイテ ン1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	シユナイテ ン ジャンボ	2,27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シユナイテ ン70777ル	2,27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	シグナス 1Z1キロ粒剤	0,2,2 7	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
シグナス 1Z70777ル	0,2,2 7	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
一発処理剤	ジズ 1Z豆つぶS250	0,2,2 7	250g/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ストロング S1キロ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	稲1葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内
	ゼータジヤカ-1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	ゼータジヤカ-ジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(200g)/10a	稲1葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゼータジヤカ-70777ル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	ゼータタカ-1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼータタカ-300FG	0,14, 2	300g/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼータタカ-ジヤンボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(300g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゼータタカ-70777ル	0,14, 2	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ゼータ77 S1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 ただし、収穫75日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼータ77 S200FG	2,27	200g/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 ただし、収穫75日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ゼータ77 S1キロ粒剤	2,27	小包装(パック)10 個(200g)/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 ただし、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゼータ77 S1キロ粒剤	2,27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	ダブールスター-SB顆粒	15,2, 27	80g/10a	稲1葉期～/ビ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	顆粒水口施用	1回
			80g/10a	稲1葉期～/ビ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	ダクンジョット707アール	15,27 4	500mL/10a	湛水直播の稲1葉期～/ビ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ツルギ 250粒剤	15,2, 27	250g/10a	稲1葉期～/ビ I2.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ツルギ ジャンボ					
	デオレキ1キ0粒剤	0,2,2 7	1kg/10a	稲1葉期～/ビ I2.5葉期但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	デオレジ ャンボ	0,2,2 7	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/ビ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	デオレ707アール	0,2,2 7	500mL/10a	稲1葉期～/ビ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
					原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	デオレ顆粒	0,2,2 7	80g/10a	稲1葉期～/ビ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
					顆粒水口施用	1回
	トニチS1キ0粒剤	0,15, 2	1kg/10a	稲1葉期～/ビ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ドリ71キ0粒剤	15,2, 4	1kg/10a	稲1葉期～/ビ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	ハッチリX1粒剤	0,14, 2	1kg/10a	稲出芽始期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ハッチリZジャンボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハッチリZ7077アル	0,14, 2	500mL/10a	稲出芽始期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
	ハッチリ400FG	0,14, 2	400g/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリX1粒剤	0,14, 2	1kg/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリX400FG	0,14, 2	400g/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリXジャンボ	0,14, 2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハッチリZ1粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリZジャンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハッチリZ7077アル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ビクトリ-Z400FG	14,2	400g/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ビクトリ-Zジャンボ	14,2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以 内
	ビクトリ-Z7077アル	14,2	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下	1回
	フルチャーZジャンボ	14,2	小包装(パック)10 個(500g)/10a	稲1葉期～/レ I4葉期 但し収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	フルバ7-MXジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック) 10個(500g)/10a	稲1葉期～/レ I3.5葉期但し収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	バック1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布	1回
	バックジヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(250g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 但し、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ベルガ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	は種直後～/レ I3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布	1回
			0.5～1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			0.5～1kg/10a	は種直後	ごく浅く湛水して散布	1回
	ベルガジヤンボ	2,27	小包装(パック)10 個(250g)/10a	稲出芽前期～/レ I3葉期但し、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ベルガ豆つぶ250 ボテ-ガードプロ1キロ 粒剤	2,27	250g/10a	稲出芽前期～/レ I3葉期但し、収穫75日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	は種直後～/レ I3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ボテ-ガードプロジヤン ボ	2,27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ボテ-ガードプロ707 ブル	2,27	500mL/10a	は種直後～/レ I3.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ボラテイジヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	マスタ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	は種直後～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布	1回
	マスタジヤンボ	2,27	小包装(パック)10 個(200g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
マスタ707ブル	2,27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	メガゼータ1キロ粒剤	14,2	1kg/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以 内
	メガゼータ400FG	14,2	400g/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	メガゼータジヤンボ	14,2	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以 内
	メガゼータ70777ル	14,2	500mL/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫60日前まで	原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下	1回
	ライジングパワージヤンボ	14,15 ,27	小包装(パック)10 個(500g)/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	70777キロ粒剤	0,15, 2,27	1kg/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	レブラジヤンボ	0,2,2 7,5	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/比 I4葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	天空1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	天空ジヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10 個(300g)/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	天空70777ル	15,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/比 I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	忍1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	忍ジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(200g)/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	忍70777ル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/比 I2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 一発 処理 剤	流星1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～/レ I3葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	流星ジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
直播 稲2 葉期 以降 処理 剤	流星70アール	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～/レ I3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	アトカ7Sジヤンボ MX	2,27	小包装(パック)20 個(500g)/10a	稲4葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アレルSC	2	500mL/10a	稲4葉期～/レ I5葉期 ただし、収穫45日前まで	湛水散布又は落水散布	1回
	ウイード コア1キロ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	稲3葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以 内
	ゲパード1キロ粒剤	0,14, 2,27	1kg/10a	稲2葉期～/レ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	シゲ MF1キロ粒剤	1,2,4	1kg/10a	稲3.5葉期～/レ I4.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以 内
	セカントショットSジヤンボ MX	2,27	小包装(パック)20 個(500g)/10a	稲4葉期～/レ I4葉期 ただし、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ツイゲキ1キロ粒剤	2,27, 5	1kg/10a	稲5葉期～/レ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
	ツイゲキ豆つぶ250	2,27, 5	250g/10a	稲5葉期～/レ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	テック1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲4葉期～/レ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
直播 稲2 葉期 以降 処理 剤	テックジヤンボ	2,27	小包装(パック)10 個(500g)/10a	稲4葉期～/レ I4葉期但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ニトクワユ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲4葉期～/レ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ニトクワユジヤンボ	2,27	小包装(パック)10 個(500g)/10a	稲4葉期～/レ I4葉期但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ニトクワユ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲4葉期～/レ I4葉期但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
直播 稲2 葉期 以降 処理 剤	バ イスコフ [®] 1キロ粒剤 ルナクロ1キロ粒剤	27,33	1kg/10a	稲3葉期～出芽後50日ただし、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
	ヒエクリン [®] ハ [®] サ [®] ラン粒剤	2,6	3kg/10a	イ [®] 3葉期～/ビ [®] I4葉期但し、収穫60日前まで	ごく浅く湛水して散布	1回	
	レブ [®] ラス1キロ粒剤	0,2,2 7,5	1kg/10a	稲2葉期～/ビ [®] I4葉期但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
	ロイヤト乳剤	4	200mL/10a	稲3葉期～/ビ [®] I5葉期 ただし、収穫45日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以 内	
	ワイド [®] アタックSC	2	100mL/10a	稲3葉期～/ビ [®] I5葉期 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	2回以 内	
	ワイド [®] パ [®] 7-粒剤	2,6	3kg/10a	稲4葉期～/ビ [®] I4葉期 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	
	銀河1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	稲3葉期～/ビ [®] I5葉期 但し、収穫30日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以 内	
	クリンチャー-1キロ粒剤	1	1.5kg/10a	は種後25日～/ビ [®] I4葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以 内	
	直播 その 他	クリンチャー-EW	1	1kg/10a	は種後10日～/ビ [®] I3葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以 内
				100mL/10a	は種後10日～/ビ [®] I4.5葉期 但し、収穫30日前まで	無人航空機による散布	2回以 内
			100mL/10a	は種後10日～/ビ [®] I5葉期 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	2回以 内	
	クリンチャー [®] バ [®] スME液剤	1,6	1000mL/10a	は種後10日～/ビ [®] I5葉期 但し、収穫50日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以 内	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 その他	トドメMF1キロ粒剤	1	1kg/10a	稲3.5葉期～/レ I4葉期まで 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	3回以内
	トドメMF乳剤	1	200m ³ /10a	は種後10日～/レ I6葉期まで 但し、収穫50日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	トドメMSMF液剤	1,6	1000mL/10a	は種後10日～/レ I6葉期 但し、収穫50日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	ハサゲラン液剤(ナトリウム塩)	6	500～ 700mL/10a	は種後35～50日 但し 収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	ハサゲラン液剤(ナトリウム塩)	6	3kg/10a	稲3葉期～入水50日後 但し 収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	ヒエグリーン1キロ粒剤	2	0.5～1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	は種直後～稲出芽前	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
			1kg/10a	稲3葉期～/レ I4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
			250g/10a	稲3葉期～/レ I3葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
			0	稲1葉期以降、アオシロ、表層はく離発生時 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
			2	稲3葉期～/レ I4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
			2	は種直後～稲出芽前	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
				は種時	は種同時散布機で施用	1回

(8) 本田除草剤の成分および使用回数

RAC	1		2		4		5		6		14		15		27		33	
	作用	ACCase阻害	ALS阻害		インドール酢酸経路阻害	光合成阻害	PPO阻害	VLCFAs阻害		白化		*ピリジノジヤンボ		不明				
成分	グリホサート	グリホサート	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素	スルホニル尿素
成分ごとの使用回数(回以内)																		
アネゼットEW	2																	
かねつづつ1キロ粒剤	2																	
兆フロアブル	1																	
ピラクロンフロアブル	2																	
シング乳剤	1																	
ソルネット1キロ粒剤	1																	
ベクサーフロアブル	1																	
マーシェットジヤンボ	1																	
マツタブジヤンボ	2																	
メテオ1キロ粒剤	1																	
メテオフロアブル	1																	
メテオジヤンボ	1																	
アカツキ1キロ粒剤	3																	
アグシズMX1キロ粒剤	3																	
アシュラ1キロ粒剤	3																	
アシュラフロアブル	3																	
アシュラジヤンボ	3																	
アネシズ1キロ粒剤	3																	
アピログロウMX1キロ粒剤	4																	
イネキング1キロ粒剤	3																	
イネヒーロー1キロ粒剤	3																	
イネヒーロージヤンボ	3																	
イネヒーローエアー粒剤	3																	
イネリーグ1キロ粒剤	3																	
イネリーグフロアブル	3																	
イネリーグジヤンボ	3																	
イノーパトリオ1キロ粒剤51	3																	
ウイニングラン1キロ粒剤	3																	
ウルティモZ1キロ粒剤	3																	
ウルティモZフロアブル	3																	
ウルティモZジヤンボ	3																	
エンペラー豆つぶ250	3																	
エンペラーフロアブル	3																	
エンペラージヤンボ	3																	
カウンシルエナジー1キロ粒剤	3																	
カウンシルエナジージヤンボ	3																	
カウンシルエナジーフロアブル	3																	
カウンシルコンプリート1キロ粒剤	3																	
ポデーガードプロ1キロ粒剤	2																	

*33作用:ホモゲンチジン酸阻害剤

RAC	作用	1		2				4		5		6			14			15						27			33		0
		ACCAs阻害	ALS阻害	フェノキシカルボン酸	トリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン	ベンゾトリアジン		
成分																													
成分ごとの使用回数(回以内)																													
2	カウンシルコンブリートジヤンボ																												
2	ボデーガードフロアブル																												
2	カウンシルコンブリートフロアブル																												
2	ボデーガードフロアブル																												
2	ガンガン1キロ粒剤																												
2	ガンガン豆つぶ250																												
3	キラリ1キロ粒剤																												
3	カラット1キロ粒剤																												
3	キラリアフロアブル																												
3	キラリジヤンボ																												
3	カラット400FG																												
3	キラリ400FG																												
3	カラット400FG																												
3	銀河1キロ粒剤																												
3	銀河ジヤンボ																												
2	クラール1キロ粒剤																												
2	クラールEW																												
3	ゴエモン1キロ粒剤																												
3	ゴエモンジヤンボ																												
3	ゴエモンフロアブル																												
3	ロメット1キロ粒剤																												
3	ロメットジヤンボ																												
3	ロメット顆粒																												
3	サキガケ薬粒																												
4	サスケ粒剤200																												
3	サラブレットKAI1キロ粒剤																												
4	サラブレットGO1キロ粒剤																												
4	サラブレットGOフロアブル																												
4	サラブレットGOジヤンボ																												
4	サラブレットGO400FG																												
4	サラブレットRXフロアブル																												
3	ジェイノウル1キロ粒剤																												
3	ジェイノウルジヤンボ																												
3	ジェイノウルフロアブル																												
3	ジェイフレンド1キロ粒剤																												
3	ジェイフレンドジヤンボ																												
3	ジェイフレンドフロアブル																												
3	ジェイフレンド400FG																												
3	シグナス1キロ粒剤																												
3	シグナスジヤンボ																												

RAC 作用	ALS阻害										4 インドール酢酸経路阻害				5 光合成阻害			6 PPO阻害			15 VLCFAs阻害						27 白化				33 *	0 不明		
	スルホニルウレア										フェノキシカルボン酸		トリアジン		ベンゾジアゾ		N-フェニル		N-フェニル		α-カロチノイド		α-カロチノイド		イソキサリ		アンリルホキシド		オキシラン		トリケトン		ピラゾール	
成分	メタミホップ	シハロホップ	アジスルフロ	ベンスルフロ	シクロスルフロ	エトキシスルフロ	フルセトスルフロ	ハロスルフロ	イマゾスルフロ	メタゾスルフロ	プロピリスルフロ	ピラソスルフロ	ピリミノバクメチ	スルホニル	スルホニル	ピリタジソン	フェノキシカルボン酸	トリアジン	ベンゾジアゾ	N-フェニル	N-フェニル	α-カロチノイド	α-カロチノイド	イソキサリ	アンリルホキシド	オキシラン	トリケトン	ピラゾール	ピリタジソン					
成分ごとの使用回数(回以内)	3	3	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2				
移 植	2										2.25																							
一 発 処 理 剤	2										2.25																							
流 星 剤	3																																	
流 星 剤	3																																	
ワザアリ薬粒	2																																	
アトリー1キロ粒剤	1																																	
アトリー豆つぶ250	1																																	
アレイルSC	2							1.80			2.40																							
ウイードコア1キロ粒剤	3										0.50																							
ウイードコア200SD粒剤	3										2.50																							
ゲバード1キロ粒剤	4										2.50																							
ゲバード2キロ粒剤	4										3.00																							
シアゲMF1キロ粒剤	3	0.9																																
セカンドショットSジャンボMX	3		0.36																															
アトカラSジャンボMX	3																																	
ツイゲキ1キロ粒剤	3																																	
ツイゲキ豆つぶ250	3																																	
ニトウリュウ1キロ粒剤	2																																	
テッケン1キロ粒剤	2																																	
ニトウリュウジャンボ	2																																	
テッケンジャンボ	2																																	
バイスコープ1キロ粒剤	2																																	
ルナクロス1キロ粒剤	2																																	
ヒエクリーバンバサグラン粒剤	2																																	
ヒエクッパエース1キロ粒剤	1																																	
ブイゴールSM1キロ粒剤	3																																	
レブラス1キロ粒剤	4																																	
レブラスジャンボ	4																																	
ロイヤント乳剤	1																																	
ワイドアタックSC	1																																	
ワイドパワー粒剤	2																																	

(9) 刈取後、畦畔等除草剤使用基準

① 刈取後除草剤

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
ブリグロックスL ジクワット 7% パラコート 5%	800～ 1000mℓ (移植水稲) 600～ 1000mℓ (直播水稲)	稲刈取後または 春期水田耕起1か 月前～直前まで	雑草茎葉散布 10a当たり 100～150 ℓ に とがして散布	・毒物につき、取扱注意。☹ (保管、安全使用) ・ミスト機での散布はしない。 ・隣接の作物、水源地・養殖池等 へ飛散、流入させない。
ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48%	200～ 500mℓ (一年生雑草) 500～ 1000mℓ (多年生雑草)	稲刈取後 雑草生育期	雑草茎葉散布 10a当たり 通常散布で 50～100ℓ、 少量散布で 5～50 ℓ に溶 かして散布	・散布後2時間以内に降雨が予想さ れる場合は散布を見合わせる。 ・専用ノズルを使用する。 ・養魚田およびその付近では使 用しない。 ・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。
ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	300～ 500ml	水田刈跡	雑草茎葉散布 10aあたり 100～150ℓ	・一年生雑草 雑草生育期
(クサトールFP水溶剤 ク ロ レ ー ト S L 塩素酸ナトリウム 60%)	10～13 kg (マツバイ) 13kg (ミズカヤツリ)	稲刈取後 10日以内 刈取後～ミズカヤ ツリの塊茎形成前 まで	雑草茎葉散布 10a当たり 80～100 ℓ にと がして散布	・消防法の適用を受けるので取 扱いには十分注意する。 ・☹ 〔厳重保管、安全使用〕 ・火気・衝撃を避ける。 ・衣類などに付着すると着火 することがあるので火気を避 けるとともに、作業終了後薬 剤の付着した衣類や地下足 袋はよく水で洗う。 ・隣接の作物、水源地・養殖池等 へ飛散、流入させない。 ・散布前後に石灰や木炭を施用 しない。

② 水田畦畔除草剤（雑草発生前処理）

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
カソロン粒剤4.5 DBN 4.5%	6～12 kg	秋冬期～春期 (雑草発生前～発 生始期)	全面土壌散布	<ul style="list-style-type: none"> ・対象は、一年生雑草(マメ科を除く)、多年生広葉雑草(マメ科を除く)、スギナ。 ・水源池、養殖池等に飛散・流入しないように注意する。 ・眼に対して刺激性あり。
	6～15 Kg (スギナ)			
カーメックスD DCMU 80.0%	150～ 300g	雑草発生前～ 雑草生育初期	茎葉兼土壌処理 10a当たり70～100ℓの水 に溶かして散布	・気温20℃以上で高湿度の条件下で効果的。
ダイロンゾル DCMU 50.0%	200 ～ 250ml	雑草発生前～生 育初期(草丈15cm 以下)	雑草茎葉散布又は全面 土壌散布 10a 当たり 100ℓに溶かし て散布	
カーメックス顆粒水和剤 DCMU 80.0%	150～ 300g	雑草発生前、雑草 発生始期～雑草 発生揃期 (草丈20cm以下)	雑草茎葉散布又は全面 土壌散布 10a当たり25～300ℓの水 に溶かして散布	

③ 水田畦畔除草剤（雑草生育期処理）

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
ブリグロックスL ジクワット 7% パラコート 5%	600~1,000ml (一年生雑草) 1,000~2,000ml (多年生雑草)	雑草生育期	雑草茎葉散布 10a当たり 100~150 l に とがして散布	・前頁注意事項参照 ・毒物 ☹
(クサトールFP水溶剤 ク ロ レ ー ト S L 塩素酸ナトリウム 60%	7.5~15 kg	雑草生育期	雑草茎葉散布 10a当たり 100~200 l に とがして散布	・前頁注意事項参照 ・☹
ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48%	200~500ml (一年生雑草) 200~1,000ml (多年生雑草) 1,500~2,000ml (スギナ) 200~1000m l (一年生及び 多年生雑草) 500~1,000ml (一年生雑草 及び多年生広 葉雑草))	雑草生育期 稲収穫前日まで	雑草茎葉散布 10a当たり 50~100l(通常 散布)にとがして散布 10a 当たり(少量散布)5~ 25lにとがして散布(ULV5 ノズル使用)	・草種によって、薬量が異なる ことがあるので、ラベルに記載 された使用方法をよく読んでから 使用する。 ・ラウンドアップマックスロードは 散布後2時間、バスタ液剤は6 時間以内に降雨が予想される 場合は散布を見合わせる。 ・散布後2~3週間は刈取りをし ない。 ・専用ノズルを使用する。 ・周囲の作物に飛散させない。 ・養魚田およびその付近では使 用しない。
バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	500~ 1,000ml	稲収穫7日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり 100~150 l に とがして散布 少量散布は 30~40l/10a	・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。
ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	500~ 1,000ml	稲収穫7日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり 100~150 l に とがして散布	・養魚田およびその付近では使 用しない。
タッチダウンiQ グリホサートカリウム塩 44.7%	250~500ml (一年生雑草) 500~1000ml (多年生雑草) 1,500~2,000ml (スギナ)	稲収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり 50 ~100l に とがして散布	・散布後2時間以内に降雨が予 想されるときは使用を避ける。 ・飛散防止のためキリナシノズル を使用して低压で散布する。

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
(草枯らしMIC シンノングリスター グリホサートイソプロピルアミン塩 41%)	250～500mℓ (一年生雑草) 500～1000mℓ (多年生雑草)	稲収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 通常散布では 100 ℓ にと かして使用	<ul style="list-style-type: none"> ・散布後6時間以内に降雨が予想される場合は散布を見合わせる。 ・散布後2～3週間は刈取りや耕耘をしない。 ・専用ノズルを使用する。 ・養魚田およびその付近では使用しない。 ・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。 ・ジェネリック除草剤としてエイトアップ液剤、クサトローゼがある。
サンダーボルト 007 グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ピラフルフェンエチル 0.16%	400～ 600mℓ	稲収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり 100 ℓ にとかし て散布	<ul style="list-style-type: none"> ・激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。 ・付近の有用作物にかからないように散布する。
グラスショート液剤 ビスピリバックナトリウム塩 3.0%	300～ 500 mℓ	雑草生育初期(草 丈10cm)及び草刈 り後10～20日の 雑草再生期(収穫 前日まで)	雑草茎葉散布 10a当たり 50 ～100ℓ にと かして散布	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈抑制による刈り取り軽減。 ・畦畔のイボクサに効果あり。

(10) 除草剤体系 (例)

① 移植栽培田

除草剤を使用する場合、使用時期が「移植後△日～ノビエ〇葉期（ただし移植後□日まで）」というように規定されている。

また、移植後◇日以内、または収穫前◎日以前という規定もあるので、使用時期には十分注意する。

同一圃場で除草剤を複数回使用するときは、各薬剤の使用回数だけでなく、薬剤の成分ごとの使用回数を超えないこと。

稚苗の機械移植の場合は苗の素質、活着状態、浅植えなどの条件により薬害の出る恐れがあるので次のことを留意のうえ使用する。

- 健苗で活着良好であること。
- 田面の整地が丁寧で均平が良く、水深は3～5cmであること。
- 極端な浅植えは避け、水稻根が地表に露出しないようにする。

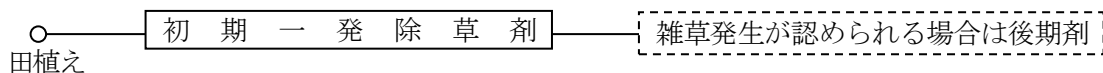
(ア) 一発除草剤を使用する場合

通常、一発除草剤を適正に処理すれば十分に雑草防除が可能である。

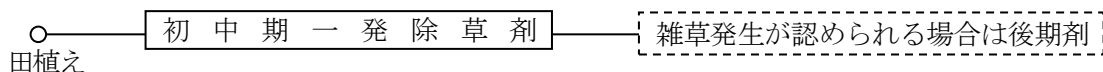
一般的に「初期一発剤」と呼ばれるもの、一般的に「初中期一発剤」と呼ばれるものが、適期処理が労力的に困難な場合、もしくは雑草多発田である場合は、初期剤を併用する。

- ・ 散布後7日間は湛水を保ち、落水や掛け流しはしない。水尻や畦畔からの漏水、オーバーフローもさせない。
- ・ 減水深2cm以上の圃場では、薬害のおそれがあるので使用しない。
- ・ 多年生雑草発生田では使用時期のうちで早めに処理する。
- ・ 残草が目立つ場合は、後期剤を処理する。

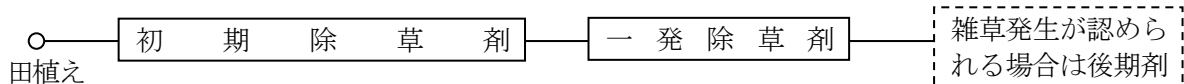
a) 初期一発剤を用いる場合



b) 初中期一発剤を用いる場合



c) 初期剤との体系で用いる場合



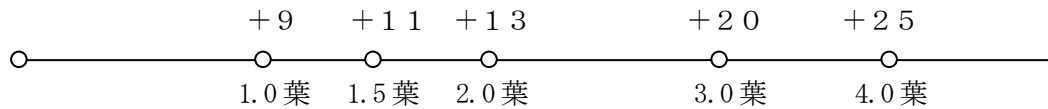
- ・ 初期剤の抑草期間はおよそ20～25日。
- ・ 一発除草剤の使用時期（田植後日数など）を守る。
- ・ 初期剤にプレチラクロールを含む剤を使用する場合、同一成分（プレチラクロール）を含む一発剤の使用は避ける。また、各除草剤に含まれる成分ごとの使用回数も確認し、その回数を超えないように薬剤を選択する。

<ノビエの葉齢の進み方（福井県嶺北地方平坦地での例）>

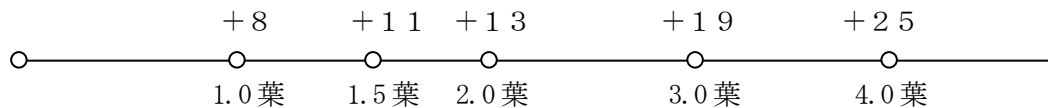
代かき日を+0日とした場合（移植時期や播種時期が5月10日頃の場合、移植や播種は代かき後

3～5日)

- ・移植栽培（移植時以外は湛水条件）

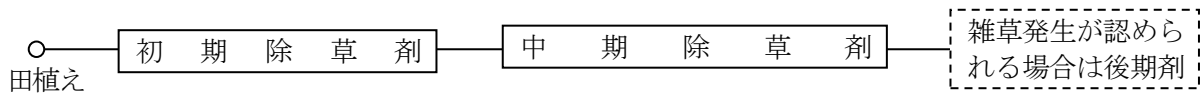


- ・湛水直播栽培（播種直前～播種後10日程度は落水条件）

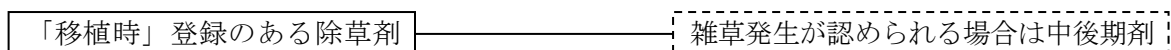


（気温が高い時は葉齢の進展はこれより早まる）

- （イ）一発除草剤を使用しない場合（初期剤＋中期剤の体系）



- （ウ）田植同時処理（「移植時」（田植同時処理）の登録のある薬剤のみ）



- ・田植機にセットした散布機械で散布するが、作業前に散布量をよく調節してから使用する。
- ・薬剤によっては、砂壤土では登録がないものもあるので注意する。
- ・田植えと同時に散布できなかった場合は本田に散布する（使用時期は薬剤により異なる）。
- ・後期に残草が目立った場合は体系処理とする。
- ・軟弱苗となった場合、浅植えの場合は使用しない。
- ・田植え時の土壌表面を硬くし過ぎない。（根が露出しないようにする。）

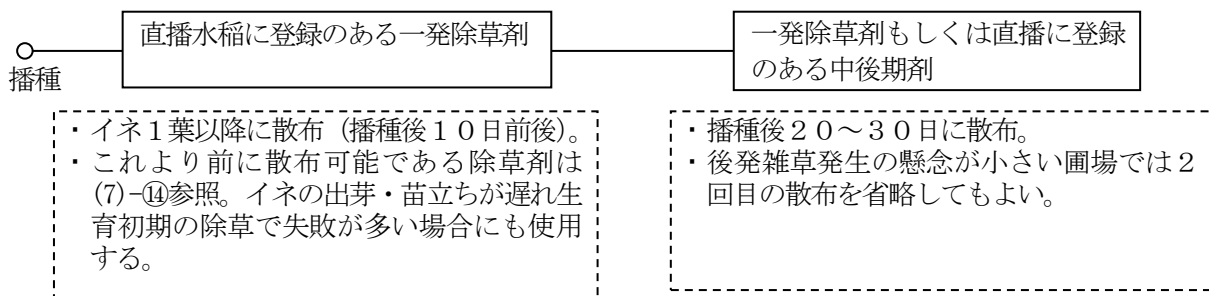
② 直播栽培田

使用時期について、稲の葉齢やノビエの葉齢、収穫前日数の規定があるので、これらを遵守する。同一圃場で除草剤を複数回使用するときは、各薬剤の使用回数だけでなく、薬剤の成分ごとの使用回数を超えないこと。

(ア) 湛水直播

除草剤散布は体系処理を基本とする。

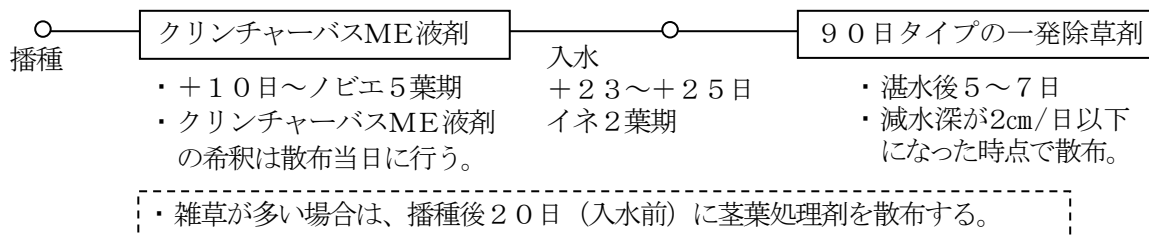
出芽安定のため播種後は落水管理を原則としているが、これは除草剤の効果確保の面からすれば望ましくない。田面に大きな亀裂が入らないよう、また黒ボク土などでは特に土が乾きすぎないように適宜入水する。



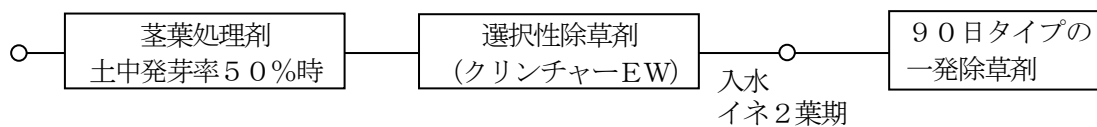
[注意事項]

- ・同一除草剤の2回使用は避ける。
- ・使用する薬剤の成分ごとの使用回数にも留意し、薬剤を選択する。
- ・SU抵抗性雑草の発生に注意する。

(イ) 乾田直播



[V字直播 (愛知県の栽培指針を参照)]

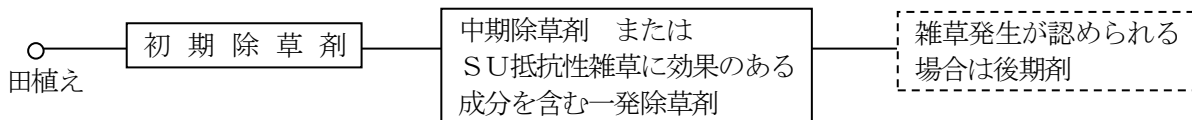


③ スルホニルウレア系（SU）抵抗性雑草に対する除草体系

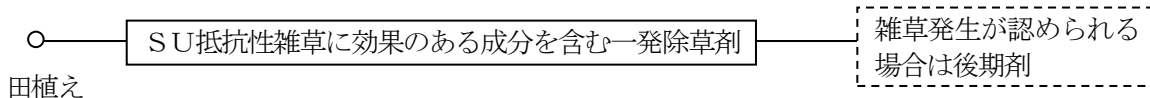
SU剤は少量で効果的で、多くの一発剤に混合されてきたところだが、SU剤に抵抗性のあるアゼナ、ホタルイ、コナギ等の発生が認められている。残草が多く、SU剤を連用してきたところはその疑いがある。

SU抵抗性雑草であることを確認した場合は、以下の除草体系により防除する。
栽培期間の途中から、SU抵抗性雑草を防除する場合は、後期剤で対応する。

(ア) 体系除草



(イ) 一発除草剤



(注) SU抵抗性雑草を抑えるためには、初期剤と中期剤の体系処理が最も効果的である。一発除草剤を使う場合は、雑草の葉齢が進んでいない、できるだけ早い使用時期（適用範囲）に使用する。

<参考1>

ホタルイが多発する水田での対応について

近年のホタルイの葉齢進展は、ノビエとほとんど同じである。（下図）

初中期一発除草剤のホタルイの限界葉齢は2葉期のものが多いため、ノビエの葉齢だけを見て除草剤を使用すると、ホタルイが限界葉齢を超えており、枯殺できないことがある。ホタルイの防除可能な葉齢は除草剤のラベルに記載されているので、よく確認してから散布を行うようにする。

また、5月中の気温が高いと雑草の生育が早く進み、限界葉齢で処理を行うと取りこぼすことがあるため、葉齢に余裕を持って散布を行うと効果が高まる。

ホタルイが水田内で目立つようになるのは、花茎が伸びだしてからであり、その時には一発除草剤はほとんど効果が見られないので、すみやかに中後期剤を処理する。

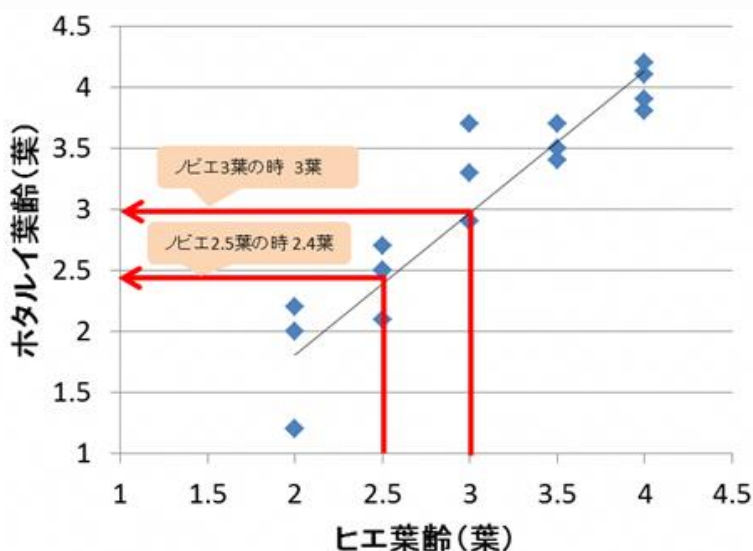
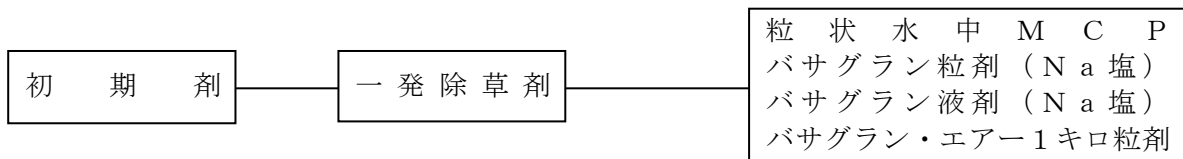


図 ヒエとホタルイの葉齢進展の関係

(福井県農業試験場、H25～29 適2 試験の平均、移植栽培)

④ 多年生雑草（ウリカワ、ホタルイ、オモダカ、ミズガヤツリ）多発田の場合



多年生雑草に対する除草有効期間は非常に狭いので、適期に散布する。

⑨と組み合わせることでさらに高い効果がある。

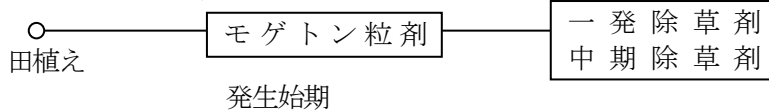
⑤ ノビエ取りこぼし田

クリンチャー1キロ粒剤	移植：ノビエ4葉期まで、直播：ノビエ3葉期まで
（ヒエクリーン1キロ粒剤	移植：ノビエ4葉期まで、直播：ノビエ4葉期まで
ワンステージ1キロ粒剤	
ヒエクッパエース1キロ粒剤	移植：ノビエ5葉期まで、直播：ノビエ5葉期まで
クリンチャーEW	移植：ノビエ6葉期まで、直播：ノビエ5葉期まで
トドメMF1キロ粒剤	移植：ノビエ5葉期まで、直播：ノビエ4葉期まで
トドメMF乳剤	移植：ノビエ7葉期まで、直播：ノビエ6葉期まで

⑥ ノビエも広葉雑草も目立つ田

クリンチャーバスME液剤	移植：移植後15日～ノビエ5葉期、収穫50日前まで 直播：播種10日後～ノビエ5葉期、収穫50日前まで
ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植：移植後15日～ノビエ4葉期、収穫60日前まで 直播：イネ3葉期～ノビエ4葉期、収穫60日前まで
ワイドアタックSC	移植：移植後20日（稲5葉期以降）～ノビエ6葉期まで 収穫30日前まで 直播：イネ3葉期～ノビエ5葉期、収穫30日前まで
アレイルSC	移植：移植後20日～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 出穂始期15日前まで 直播：稲4葉期～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 出穂始期15日前まで
ワイドパワー粒剤	移植：移植後20日～ノビエ5葉期、収穫60日前まで 直播：稲4葉期～ノビエ4葉期、収穫60日前まで
ロイヤント乳剤	移植：移植後20日～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 直播：稲3葉期～ノビエ5葉期、収穫45日前まで <u>ホタルイは適用雑草ではない</u>
シアゲMF1キロ粒剤	移植：移植後20日～ノビエ4.5葉期、収穫60日前まで 直播：稲3.5葉期～ノビエ4.5葉期、収穫60日前まで

⑦ ウキクサ、藻類多発田



ウキクサ、藻類の多発田のみ使用する。

トリアジン系中期除草剤を直ちに散布するときは使用する必要はない。

⑧ 中後期剤を使用する場合

中後期剤は、対象草種の葉齢等にあった除草剤を選択し、適量を散布する。ただし、それ以前に散布した除草剤と同じ成分の入ったものの使用は避ける。また、粒状水中MCPを使用する場合、有効分げつ終止期以前に散布すると、十分な有効茎が確保できない場合があるので注意する。

⑨ 稲刈取後の雑草防除

ミズガヤツリ、クログワイ、セリ、オモダカなど難防除雑草の多い圃場で使用する。

ア) 刈取後なるべく早めに除草剤を散布し、地上部を枯死させ、地下茎の形成を阻害する。

イ) 塊茎形成時期はかなり幅があり、早いものは9月中～下旬にすでに塊茎の形成がみられる。

ウ) 散布時期が遅れるほど塊茎の数が多くなるので除草効果が劣る（9月中下旬まで）。

エ) 2年連続で秋散布をすると、ほぼ根絶が可能となる。

(散布上の注意)

- 散布前後に降雨があると効果が落ちるので、天候をよく見極めて散布すること。
- 田面がワラで覆われているときは、雑草が発生してから散布し、茎葉に薬剤をよく付着させる。
- 散布する場合、圃場周辺の作物の薬害防止に細心の注意を払う。

* 薬剤は例

上記以外の薬剤は（7）本田除草剤の使用方法を参照すること。

3 水稲植物成長調整剤

(1) 湛水直播栽培の発芽率向上、苗立歩合の安定

薬 剤 名	使用時期	処 理 量	処理方法	回数	注 意 事 項
カルパー粉粒剤16 過酸化カルシウム 16%	は 種 前 浸 種 後	乾燥籾重 量の等倍 ～2倍量	湿 粉 衣	1	<ul style="list-style-type: none"> ・は種前日に粉衣する。 ・発芽した籾は使用しない。 ・陰干しし、薬剤が固化してから播種する。 ・眼に強い刺激性があるので、眼に入らないように注意する。 ・直射日光を避け、酸類と隔離し乾燥した場所に密封して保管する。 ・無人ヘリコプターによる散播時にも使用可。
タチガレエースM粉剤 ヒドロキシイソキサゾール 4% メタラキシルM 0.25%	は 種 前	乾 籾 重 量 の 3 %	過 酸 化 カ ル シ ウ ム 剤 に 添 加 し て 種 籾 に 粉 衣 す る	1	<ul style="list-style-type: none"> ・根の生育促進による苗立の安定
オクソスDS 過酸化カルシウム 19%	は 種 前	乾燥種籾 重量の 0.5倍～ 等倍量	種 子 粉 衣 (湿 粉 衣)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・苗立の安定

(2) 節間短縮による倒伏軽減

薬 剤 名	使用時期	10a当たり 処 理 量	処理方法	回数	注 意 事 項
スマレクト粒剤 パクロブトラゾール 0.6%	出穂15～ 10日前 (登録は出穂20 ～7日前)	2～3kg	湛 水 散 布	1	<ul style="list-style-type: none"> ・均一散布 ・散布後7日間は落水やかけ流しをしない。 ・砂壤土では2kg/10a施用とする。 ・本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。
ビビフル粉剤DL プロヘキサジオン カルシウム塩 0.12%	出穂10～ 5日前	3～4kg	散 布	1	<ul style="list-style-type: none"> ・均一散布 ・散布の際はマスクを着用し、作業後はうがいをする。
ロミカ粒剤 ウニコナゾール P 0.04%	出穂25～ 10日前	2～3kg	湛 水 散 布	1	<ul style="list-style-type: none"> ・均一散布 ・黒ボク土壌では効果が劣る場合がある。 ・散布後7日間は落水やかけ流しをしない。 ・スマレクト粒剤の注意事項を参照。